

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり (別冊) —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにして学力の向上を図るか、その理念や方法等を「かけがわ学力向上ものがたり」として平成26年3月に策定しました。

新学習指導要領の実施を控え、これまで意識してきた「学びのユニバーサルデザインを重視した授業」、「授業の再構築」、「主体的・対話的で深い学びの授業設計」の3つの取組を継続し、子どもたちの確かな学力の向上を目指します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤とした共通理解と共通実践をとおして、全教職員が組織的な協働を図っていきます。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

平成30年8月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	18
10	桜木小学校	20
11	和田岡小学校	22
12	原谷小学校	24
13	原田小学校	26
14	西郷小学校	28
15	倉真小学校	30
16	土方小学校	32
17	佐束小学校	34
18	中小学校	36
19	大坂小学校	38
20	千浜小学校	40
21	横須賀小学校	42
22	大淵小学校	44

【中学校】

23	栄川中学校	48
24	東中学校	50
25	西中学校	52
26	桜が丘中学校	54
27	原野谷中学校	56
28	北中学校	58
29	城東中学校	60
30	大浜中学校	62
31	大須賀中学校	64

小学校

掛川市立日坂小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

平成29年度の研修の取組に対する成果と課題

〈成果〉

- ・子どもたちが考えたいくなるような課題の設定…本気になって課題に取り組んだ。
- ・交流方法の工夫…課題を解決するために熱心に話し合い、学びを深めた。

〈課題〉

- ・わかりやすく伝えることができる…教職員評価 60%
- ▲意見の強い子に流される ▲先生に対して話す ▲ホワイトボードの使い方

研修テーマ

進んでかかわり学び合う子

研修の取組

児童の実態を踏まえ、本年度は、“自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿”を高めていくことを本校の重点としていく。

まず、昨年度から継続して、子どもたち自身に、学ぶ必要感を持たせたいと考える。子どもが夢中になって「話したい。」「聴いて比べてみたい。」「もっと調べたい。」「考えてみたい。」といった主体的な学びをめざしていく。解決したいという思いが持てれば、追究しよう、交流しよう、という意欲につながっていくと考える。そのために、子どもたちが考えたいくなるような課題の設定について研修を行っていく。そして、交流しよう、という意欲を引き出した上で、昨年度同様に課題を解決するための交流方法の工夫についても継続して研修を行っていく。最後に、自分の思いや考えをわかりやすく表現する場の設定として、グループ交流や全体交流の中に位置付け、どのようにしたらわかりやすく伝えることができるかを研修していく。



特色ある学力向上への取組

児童が考えたいくなるような課題設定

- ・ 目標、学習課題、まとめまで一貫した授業構成
- ・ 自ら学びを深めたいと思える手立て
(例)児童の疑問から課題を引き出す。

交流方法の工夫

- ・ 目的をもった交流を位置づける。
(例)考えを比べるための交流
仲間と協力して課題を解決するための交流
- ・ 交流方法の検討
知識構成型ジグソー法、ペア交流

ぐんぐんタイム

朝活動の時間に、基礎基本の定着を図るための活動を行う。

- ・ 音読、視写、読書、基礎基本

ぐんぐんテスト

年2回、児童の実態を把握するため行う。

外国語活動の充実

掛川スタンダード

- ・ 資料の活用
- ・ ふりかえりを行い、児童の様子を見取る。

ALT との連携

- ・ 毎週 ALT と打ち合わせを行い、役割を確認する。

表現する力を高める各種発表会

- ・ 音読集会、百人一首
(6月)
- ・ かがやき発表会
(12月)
- ・ 音読週間 (1月)
- ・ 百人一首大会 (2月)



eライブラリー

家庭学習サービス

「使い方ガイド」
「児童 ID カード」
全員に配付し、
各家庭で楽しく
学習中！



目指す姿

- ①考えを比べながら聴き、伝え合う姿
- ②仲間と協力して、課題を解決する姿
- ③自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿

掛川市立東山口小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

東山口小の子どもたちは、素直で、真面目に一生懸命学ぼうとする子が多く、与えられた課題に対して前向きに取り組むことができる。また、昨年度、「学び合い」を研修の重点として学習形態や学習方法の工夫に取り組んできたことで、仲間とともに考えようという意識が育ってきている。その反面、学習に対して受け身なところがあり、自ら学びを求め、さらに深い考えを追究しようという、一人一人の学びに向かう力は十分に育っているとは言えない。また、個人差が大きく、一人一人の学力向上のためには、個別の支援が必要である。

そこで本年度は、子どもが主体的に課題に取り組み、仲間との協働によって解決を図るという学び合いの質を向上させることで、子どもたちの学力を向上させることを目指していく。

研修テーマ

進んでかかわり学び合う子

研修の取組

「算数」を窓口教科とし、全職員で取り組む。

(1) 子どもが課題を明確に持ち、その課題を解決するための見通しが持てるような課題設定の工夫

- ・課題追究の過程で学び合いが必要になる学習課題を提示する。
- ・既習事項を生かし、手がかり（課題解決の見通し）をつかませる。
- ・概念的なまとめをしたり、適応問題の時間を確保したりすることで、知識・技能の習得を図る。
- ・算数用語を使って、自身の思考過程を振り返る「振り返り」を書けるようにすることで、「どのように学ぶか」という「学び方」を育成する。

(2) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを深めるための学び合い活動

- ・多様な学習形態や学習方法を工夫する。
- ・学び合いの質を高めるために、学び合いの視点や進め方を提示する。
- ・「筋道立てて考える力」を育てるために、具体物を用いたり、表や図に表して考えたりすることを指導する。
- ・考えを表現する場を保障し、自分の考えを言葉で説明する力を育成していく。



特色ある学力向上への取組

学び合い名人表の活用

聴き方・話し方をレベルアップさせ、学び合いの質を高めるために活用する。低学年用と高学年用を用意し、学び合いに必要な聴き方や話し方を具体的に指導する。ステージごとに個人で振り返りをしたり、クラス掲示をしたりして、年間を通して成長できるように意識付けを行う。

読書指導

毎朝10分間の読書から1日をスタートさせる。多くの本に親しみ、進んで読書しようとする態度を育てるために、学年に応じた目標冊数、必読図書や推薦図書を設定している。また、月2回教師やボランティアによる読み聞かせや、年2回の親子読書を行う。

学習支援環境

1、2年生は毎週月曜日放課後の「寺子屋」の時間、3年生以上は学級裁量の時間に、算数を中心に個別支援を行う。個別支援を通して、児童一人一人に基礎的な力をつける。

また、夏季休業中に3日間「夏休み寺子屋」の日を設定し、一斉学習で習得が不十分な児童などを対象に全職員で個別指導にあたる。

校内自主テスト

年3回、「チャレンジテスト（国語・算数）」を実施。漢字の読み書きや計算を中心に、基礎や応用力の定着を図る。12月には、定着度を意識した問題を用意する。目標合格点に達するまで繰り返しチャレンジさせ、基礎的な力を伸ばしている。

外国語活動

外国語活動を通して、英語に親しみ友達と関わり合うコミュニケーション能力の素地を育むことを目標としている。子どもの実態に合わせ、評価の観点「3 Good」(Good Smile Good Voice Good Reaction)を意識してコミュニケーション活動を行う。また、月1回程度、中学校区内のALTを招き、外国語活動の充実をはかる。

家庭学習の充実

栄川学園共通の「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣づくりを行う。幼稚園から中学校まで、学年に応じた学習時間や学習内容を示している。家庭学習の仕方を保護者にも理解してもらい、家庭学習の充実をはかる。eライブラリーやチアアップシートなども活用する。

目指す姿

- ・課題を自分のものとし、仲間と協力して解決しようとする姿。
 - ・自分の思いや考えを分かりやすく表現する姿。
 - ・考えを比べながら聴き（訊き）、伝え合う姿。
- (低) 進んで友達とかかわり、自分の考えをつくろうとする。
- (中) 互いの考えの違いに気付き、自分の考えを深めようとする。
- (高) 複数の考え方に触れ、よりよい答えや方法を求めようとする。



掛川市立西山口小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

学校評価より

項目	H29	H28
授業の内容が分かる。	92%	92%
人の話を目と耳を向けて聴いている。	96%	94%
進んで自分の考えを発表したり話し合ったりしている。	84%	80%

成果

- 昨年度より、「進んで自分の考えを発表したり話し合ったりしている。」項目が4%近く上昇している。
- 「授業の内容が分かる」の数値が高い。
- 主体的に授業に参加している。

課題

- ▲授業に参加をしているのか曖昧な児童が見られる。
- ▲発言をする児童がいつも固定的になっている実態がある。
- ▲相手の言葉に対しての受けとめ方が弱く、対話がつながっていない。

研修テーマ

「きき合い 学び合う授業」

研修の取組

「やってみたい！」学習問題の設定

子どもたちが「やってみたい!」「考えたい!」と主体的に問題解決に取り組める学習問題を設定します。課題や問いに対する活動を焦点化することで、全員が考えをもち深い学びに向かう対話につなげます。

きく活動を取り入れた学び合いの場の設定

追究場面の中で、2つのきく（「聴く」「訊く」）場面を取り入れていくことで、対話しながら学び合い、思いを受けとめ思いを伝える子を育てます。授業者は、「何を対話させるのか」を明確にし、いくつかの観点から考える材料を用意します。さらに、授業の中でどのように子ども同士を「つなぎ」「もどす」のかを意識しながら、授業展開を構想していきます。

メンターチーム研修

メンター（教職経験5～10年）が、メンティ（経験の浅い教員）の仕事や諸活動を支援します。経験の浅い教員同士が、気軽に悩みや困っていることを話し合い、同じような課題を共有することで、自分たちなりの解決の方法を考え、自己解決力を身に付けていきます。

特色ある学力向上への取組



外国語活動

西山口小の3good を大切にしています

- ① Good Smile (えがお)
- ② Good Voice (大きな声)
- ③ Good Reaction (身ぶり・手ぶり)



「ふりかえりカード」を使用し、3つの項目ができたかどうか確認をし、子どもたちが意識して取り組めるようにしています。

Story time の導入

絵本を購入し、読み聞かせを推進しています。

外国語教材を内容ごとに揃えて、どの学年も使用できるようにしています。

ALT・学年間の打合せを大切にしています。



情報教育

ICT機器の活用、問題発見・解決能力の基盤の育成

・「情報の収集や選択、共有する」「図や表で自分の考えを分かりやすく伝える」「学習の確実な定着」等、児童の様々な学習場面においてICTを効果的に活用します。

言語活動や体験活動におけるICT機器の基本的な操作の習得

・本年度タブレットを導入し、写真や動画、話合いのまとめ等、必要に応じて情報手段を活用することができるようにします。

読書指導

読書活動の充実

- ・朝活動での読書
- ・年間100冊を目標に、読書の記録をカードに記入
- ・毎月家庭での親子読書

図書ボランティアの協力

- ・朝活動での読み聞かせ
- ・全校読み聞かせ
- ・本の受け入れ、装備
- ・掲示や図書の整理

家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え、「家読」「親子読書」「わが家の家庭学習ものがたり」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、子どもたちの学習面・生活面の基礎力を支えていきます。

本年度eライブラリーに本格的に取り組む予定です。講師を招いて研修を行い、家庭へ周知するなど家庭学習の充実を図ります。



目指す姿



主体的に問題解決に取り組み、身に付けさせたい力を付けた子

対話しながら学び合い、思いを受けとめ思いを伝える子



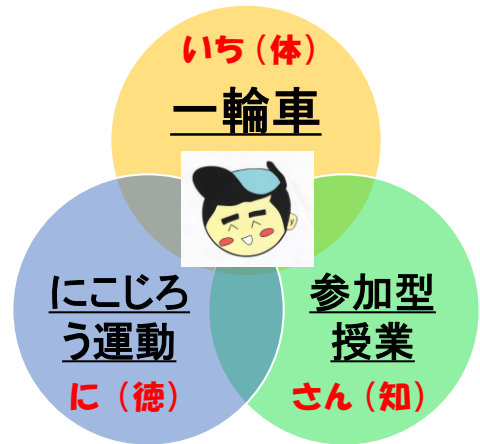
掛川市立上内田小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

経営の柱「1 2 3の学校」

- 指示されたことや与えられた課題に対して真面目に一生懸命取り組むことができる。
- 問題に対し、「やってみたい!」「なぜ?」という思いをもつ意欲が高まった。
- △自ら考えて行動を起こしたり、主体的に自分を表現したりする力が弱い。
- △自分の考えをもっていても全体の中で伝えられることができるのは一部で、全体で関わりながら授業を創っていかうとする意識が低い。



研修テーマ

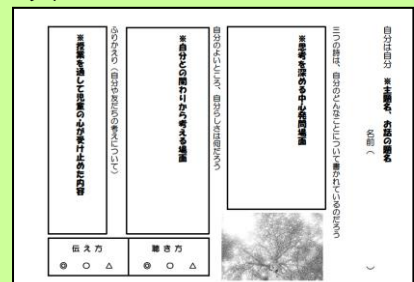
みんながつながる授業づくり～参加型授業の創造～

研修の取組

子どもを主人公にした授業展開

- 1 めざす授業像を設定
 - (1) みんながつながる授業を創るために、「伝え方」「聴き方」の2つを柱として、各クラスでめあてを話し合う
- 2 具体的な手立て（窓口教科：道徳）
 - (1) ねらいとする道徳的価値に迫るための手立ての設定
資料分析、子どもの今の道徳性の把握、本時のねらい、評価方法
 - (2) 参加型授業のための手立ての設定
中心発問と授業形態の吟味、投げかけ・揺さぶり・体験
教材提示、話し合いの形態、ワークシート、板書の工夫
 - (3) 授業を基に自己を見つめるための手立ての設定
振り返り活動、教師の説話の工夫
 - (4) 担任以外の道徳授業実施
管理職による授業、担任のローテーション道徳
 - (5) 外部人材リストの作成、活用

上内田小型
道徳ワークシート





特色ある学力向上への取組

外国語教育の充実

- ・ E-A-L-Tとの打ち合わせの時間の確保、掛川スタンダードの活用
- ・ 振り返りの合言葉を全学年で統一、3つの観点を子どもと共有



家庭学習の充実

- ・ 家庭学習の手引きを配付し、学習習慣づくり
- ・ わんわんわん運動（ノーメディア）の実施
- ・ 家庭でのeライブラリー活用、校内での使い方指導

サマースクールの実施

- ・ 卒業生の掛東中生や教師による夏休み中の補習学習
- ・ 先輩に教わることで学習意欲向上



朝活動の作文タイム

- ・ 「条件に合った文を短時間で」を目標にして書くことに慣れる
- 〈1、2年生〉
作文の基礎、書き方
- 〈3年生以上〉
朝日小学生新聞のコラム欄を活用
中学年…テーマに迫った感想
高学年…中学年の内容に加えて、
要旨の読み取り

暗唱の取組

- ・ 毎月1つ課題を決めて実施
- ・ 年間3回の校長先生チャレンジ
- ・ 参観会や地域の行事で発表の場を設定



平成30年度 上内田小暗唱チャレンジ

月	チャレンジ課題名	暗唱日	暗唱時間
6月	百人一首		
7月	言葉物語		
9月	忘れがた		
10月	こたまてしよか		
11月	講談		
12月	一冊の命		
1月	百景は夢である		
2月	学校のすずめ（朝顔）		
3月	日本国憲法前文		

目指す姿

- ・ 自分らしさを精々と発揮し、学ぶことを楽しむ子
- ・ 互いのよさを認め合い、励まし合い、高め合う子
- ・ 確かな学力が身に付いている子
- ・ 自ら思考、判断し、表現する子
- ・ 本を読むことが好きな子



掛川市立城北小学校

平成30年度 我が校のものがたり

本校の児童

4年以上前から「誰にでもやさしい学校」、「誰もがわかる授業」を目指して取り組んできました。また、H27・28年度の2年間に渡る市指定研究「確かな学力の育成」を目指した取り組みと、その集大成として取り組んできたH29年度の1年間により、以下のよ
うな姿が増えています。

- ・課題に前向きに取り組む、自分なりの考えや思いをもつ。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを深める。
- ・学びに浸る。

授業への積極的参加

児童へのアンケートの結果（H29）、91.4%の子どもが「授業がよくわかる」と回答しました。よくわかるという自信は全国学力学習状況調査の結果にも表れています。また、授業の終わりには新たな疑問や次時への意欲がしばしば生まれています。

研究主題 学び合う授業づくり ～「確かな学力」の育成～

【研修仮説】問題解決の場において、主体的・対話的に学ぶための手立てを工夫し、子どもが考えたく
なるような教師の意図的な関わりがあれば、学び合いが生まれ、さらに学びが深まり、「確かな学力」へ
と結び付くであろう。さらには、「国語が好き。」「授業が楽しい。」と思える子どもが増えるであろう。

《本校がとらえる「確かな学力」を身につけた子ども像》

- ・既習事項や体験等を用いて学習問題に挑戦する子
- ・根拠を明らかにして自分の考えを表現できる子
- ・友達の考えに進んで反応できる子
- ・友達の考えを聞いて学びを深めることができる子
- ・理解したことや新たな疑問、次時への意欲を表現できる子

「かけがわ型スキル」を育むために構築をめざす

じょうほく型「新たな学びのプロセス」①～⑨

その① 授業過程の再構築

付けたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』

- ・学習指導要領や授業づくり指針が示す付けたい力に沿った本時の目標となっているか。
- ・本時の目標を達成するための学習問題となっているか。
- ・他学年、他教科との関連事項、既習事項などを踏まえて導入部分を工夫できているか。
- ・掛川スタンダードを活用した外国語活動に取り組む。

主体的・対話的に学び合う中で自己の考えを深める「学び合い」の実現『仕掛ける』

- ・子どもが主体的に考えを持つための工夫ができているか。（ワークシート、教具の工夫、既習事項の確認等）
- ・子ども同士で考えを深めるための対話の場の設定ができているか。（ペアやグループの話し合い等）
- ・子ども同士で考えを深めるための対話の手段、方法を示されているか。（話し合いのルール等）
- ・自分の考えの深化した内容や、意見の変化等を発表し合う場の設定ができているか。

子どもが学びを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』

- ・「まとめ」や「ふり返り」の時間の確保ができたか。
- ※「まとめ」…本時の学びの確認（一斉） 「ふり返り」…感想、新たな疑問、次時への意欲等（個人）
- ・本時の目標と学習問題と「まとめ」の整合性が図られているか。

四部体制の推進による じょうほく型「新たな学びのプロセス」

学びづくり部

その② 言語活動の充実

- 金じろうタイム…書くことに慣れ、表現する力を付ける活動
- スピーチタイム…話すことに慣れ、わかりやすく伝えたり、表現したりする力をつける活動

その③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う ○「つきたい力」を明確にした授業
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- 宿題の質・量の向上や家庭学習充実のための家庭への働きかけ
- eライブラリアドバンスの積極的な活用

その④ 読書活動の充実と学校図書館を活用

- 読書の習慣化 朝読書の充実 読書ボランティアによる読み聞かせ
- 図書室を活用した授業実践…図書館司書・読書ボランティアとの連携

心づくり部

その⑤ 心の教育の充実

- 自己肯定感を高める かがやき賞 の授与
- 人間関係づくりプログラムの充実

その⑥ 道徳教育の充実

- 「かがわ道徳」の実践の充実
(「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたい -掛川の偉人ものがたり-」の活用)
- 道徳コーナーの設置・ふり返り

体づくり部

その⑦ 健康教育・体づくり活動の充実

- 体カづくりの充実
自主的に取り組む GOGOチャレンジ・朝ランニング
- 生活習慣の意識を高める「健康食育の日」

特別支援教育部

その⑧ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

- じょうほく型スタンダード「授業づくり」「生活づくり」の推進
- 特別支援教育の情報発信

ユニバーサルデザインの視点での授業づくり・生活づくりは
城北小教育の基盤として行う

その⑨ 家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより ○家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」 ○eライブラリアドバンスの活用
- あいさつ活動の充実 ○冀北学園「地域コーディネーター」との連携

学年体制による推進（一年部・二年部・三年部・四年部・五年部・六年部・特支学級）

かけがわ型スキル（思考力・問題解決力・意思決定力・コミュニケーション力・情報の選択・活用力・地域や社会の中で生きるためのキャリア体験）

- ・「かけがわ型スキル」やユニバーサルデザインの視点を取り入れた「授業づくり」「生活づくり」、冀北の教え五か条等をもとに、授業や生活を構想し、実践する。
- ・児童が「確かな学力」や、さらなる向上心・たくましさを身に付けること、本校がより密に保護者・地域と連携することをめざす。
- ・教職員が率先して「質的向上」と「危機管理」に努め、児童に範を示す。



掛川市立第一小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 教室は間違えるところだという雰囲気生まれ、分からないことをそのままにせず、友達に尋ねるなどして自分の考えをもてる子が増えた。
- 課題設定や提示の工夫、学習問題成立までの手立てが子どもの思考と一致したとき、子どもにとって魅力的な学習問題が成立し、主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・困ったときにも尋ねることができない子や、特定の子にしか聞くことができない子がいる。
- ・相手を意識して、分かってもらおうとして伝えることができていない子がまだ多い。
- ・学び合いに参加できない子や、主体的な姿が見られない子がいる。

研修テーマ

ともに学び合う

～学び合いを通して、「わかった」「できた」が実感できる授業づくり～

研修の取組

学び合いを通して「わかった」「できた」につながる手立てや支援ができていたか。

子どもにとって魅力的な学習問題が成立したかどうかは、研修の視点として引き続き考えていく。また、子どもの「わかった」「できた」につながる手立てや支援について、参観者が見取り検証する。

子どもの「わかった」「できた」を見取るために、

- ①ねらいにそったまとめを書かせる。単なる感想にならないようにする。(学年の実態によっては、隣の子に話をさせることも考えられる。)
- ②確認問題を解く。(穴埋め等も含む)
- ③ジャンプ課題に取り組む。 など、見取るための手立てを、授業案の終末に明記する。

<共通実践事項> ～全ての子を、学びへ参加させるために～

- ・子どもの聴こうとする気持ちを育てる。(コの字型座席配置、教師の話を減らす、子どもの発言を繰り返さず別の子につなぐ)
 - ※コの字型の配置の仕方は学級の実態による。
 - ※1年生の座席配置は、夏休み明けから後期開始の時期に、コの字型にする。
- ・教師の意図的指名で、授業を進めていく。
- ・ペア・グループでの学び合いは、個々の考え作りを手助けする1つの手段と考え、考え作りの段階で取り入れる。(ペア・グループの形であっても個々の考え作りをさせ、困ったときに子ども同士でケアし合える関係づくりをしていく。)
 - ※1・2年生はペアを基本、3年生以上はグループを基本とする。



特色ある学力向上への取組

共通実践事項の設定

- ・子どもの聴こうとする気持ちを育てる。(コの字型座席配置、教師の話を減らすなど)
- ・教師の意図的指名
- ・ペア・グループでの学び合いは、考え作りの段階で取り入れる。

全体研修の充実

- ・佐藤雅彰先生を講師として招聘し、中心授業、公開授業に対してだけではなく校内研修への助言をいただく。
- ・全員が年間2回、佐藤先生に授業を公開し、御指導をいただく。

目指す授業像の設定

- ・「こんな授業をしたい」という子どもの主体的な学びの姿勢を醸成する。
- ・同じ学年の担任同士が、学級の実態や付けたい力を話し合い、統一感のある授業や指導を心掛ける。
- ・目指す授業像を掲示し、児童も教員も日頃から意識していく。

学びに必要な基礎基本の定着・徹底

- ・居心地のいい学級・授業づくりのための「教師の心得」「授業の心得」の共通理解
- ・掛一小ノートのスランダード（使い方）の設定
上記のように、学習に必要な心構え、学習の仕方等を、どの学級においても統一感のある指導をすることで、安心して学習に臨むための土台作りをする。

掛一小笑顔いっぱいの外国語活動

- ・3つの Good
Good smile, Good voice, Good reaction を推進し、振り返りカードの中でも振り返らせる。
- ・掛川スランダードの活用
スランダードをもとに、各学年、年間計画を作成し、ALT と打ち合わせをして、計画的に授業を進める。



目指す姿

自分で考え進んで行動

- ・子どもたち同士が、主体的にかかわり合って学び合おうとする。
- ・学級のどの子も見捨てられず、孤立せず、全員が参加する。
- ・互いに聴き合うことを大切にして、仲間に受け入れられたことが実感できる。
- ・仲間とともに課題解決することで、「わかった」「できた」が実感できる。

掛川市立第二小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 素直で、決められたことに一生懸命取り組むことができる子が多い。
- 自然と話し合いができるようになってきた。全体の場では、なかなか発言できない児童も、ペアやグループ交流では、自分の意見を言うことができるようになってきている。
- 学力に差があり、個別に支援をしていく必要がある。
- 話し合いの中で、考えを広げたり深めたりする経験が不足している。

研修テーマ

主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり

研修の取組

- ①つけたい力に即した、効果的な「交流活動」の工夫
 - ・「分きたい」という意欲をもって授業に臨めるようにする。
 - ・自分の考えを深めたり、ものの見方や考え方を広げたりする。
- ②交流活動をするための基盤作り
 - ・対話レベル表を全校共通で用いる。
- ③学年部研修の充実
 - ・国語、算数を窓口として、日々の授業を相談しながら進めていく。
 - ・異なる単元を公開することで、年間のPDCAサイクルを意識して研修する。
- ④新学習指導要領を意識した授業改善
 - ・「特別の教科道徳」や外国語を公開し、全職員で研修を深める。
 - ・Pepperを活用したプログラミング教育を、昨年度以上に充実させる。



特色ある学力向上への取組

①基礎学力向上の取組

- ・毎週火、木曜日の朝活動で、漢字計算等の反復練習を行う。
- ・年2回「掛二っ子チャレンジテスト」を行い、9割正答を目指して、合格できるまで指導を行う。

②つきたい力に即した交流活動の設定

- ・4月と5月は、「黙って最後まで聴き、聞こえる声で話す」に全校で取り組み、学習の構えを作る。
- ・ペア対話、グループ対話、一斉対話など、異なる規模による交流を行う。

③新学習指導要領に対応した授業の実践

- ・外国語教育では、掛川スタンダードを活用して、主体的に英語で伝えようとする態度を養う。
- ・「特別の教科道徳」では、児童がより主体的に考え、議論することができるような授業展開で行う。
- ・Pepperを活用したプログラミング教育では、児童が失敗を重ねながら、何度も試行錯誤して取り組むことで、思考力を育む。

④保護者と連携して、家庭学習の充実を図る

- ・家庭学習の手引きを配布して、発達段階に応じた学習方法を提示する。
- ・eライブラリを活用して、意欲的に家庭学習を行うことができるようにする。
- ・P T A活動で、家庭での読書（うちどく）を推進する。



目指す姿

- ・「分きたい」という意欲をもち、主体的に学ぶ児童
- ・自分の考えを広げたり深めたりする児童
- ・基礎学力の向上と豊かな感性を育む児童

掛川市立中央小学校

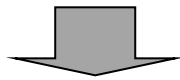
平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

平成29年度の研修テーマ『主体的に学ぶ子の育成』重点「意欲を高める授業～ICT活用を通して～」に取り組んできた上での、児童の実態は以下の通りである。

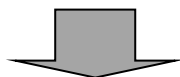
- 授業への集中度が増し、主体的に学ぶ子（自分から課題に取り組む、発表等）が増えた。
- 学校アンケートで「授業が分かる。」と回答した児童が90%を越え、高いレベルを維持している。
- 児童がICT機器を活用することに慣れ始めている。
- △主体的な関わりを通して、個々の考えを広げたり深めたりする場面に弱さがある。
- △個人差が大きい。（学習の定着、ICT機器の活用スキル）

研修テーマ



対話をうみだす授業づくり～ICT活用を通して～

研修の取組

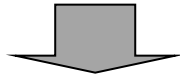


昨年度は、教師がICT活用のための技能を身に付けると共に、「児童が主体的に学ぶ」ための手立てとしてICT機器を効果的に活用できるように、積極的にICT機器を活用し、実践を積み重ね、そのあり方を模索する1年目だった。

〈昨年度の成果と課題〉

- 児童の「おもしろそう。」「やってみたい。」という学ぶ意欲を高め主体的な学習を促していくために、ICT活用は大変有効であることが共通理解できた。
- 教師一人一人にICT活用の得意分野（教科、方法、場面）ができ、それをもとに児童の意欲を高める授業を構想できるようになってきた。
- 教師のICT機器の活用スキルが向上した。
- ICT機器を活用することで、授業で使用する資料等の準備時間が短縮された。
- △ICTの活用により高まった児童の意欲が継続していく授業を構想できるようになること。
- △意欲を高めるだけにとどまらない、ICT活用の有効性の模索。
- △教師のICT機器活用スキルのさらなる向上。

本年度は、ICT機器を積極的に使うことに留まらず、児童の主体性や学ぶ意欲を維持しながら、「対話をうみだす」ためのICT機器の有効な活用について研修を進めていく。年3回の中心授業、一人1回以上の公開授業を年間計画に位置づけ、そこでの、有効なICT活用について協議し、研修テーマへ迫る。窓口教科は学年で統一するとともに、他学年、他教科でのICT活用についても協議できるようにしていく。また、計画的に学年研、全体研修でICT研修を行い、教師や児童のICT活用スキルの向上を図っていく。



特色ある学力向上への取組

◇「3BIG」いっぱいの子の育成

中央小では、学校生活の中で願う児童の表れとして、「3BIG」という言葉で児童と共に共通理解している。今年度4項目に精選して、ステージごとのまなびつくりの重点としている。教室背面に掲示し、目指す姿として活用。

BIG EYES	BIG VOICE	BIG HEART
思いを受け止める	分かりやすく伝える	意欲的に活動する
"BIG EYES" 	"BIG VOICE" 	"BIG HEART" 
手に何も持たずに	みんなに聞こえる声で	ねえねえ、教えて！
相手の方を見て	みんなの方を見て	自分からやろう！
じっくり最後まで	はっきり最後まで	ばんばん発表！
反応を返しながら	反応を確かめながら	やる気いっぱい！

◇外国語教育

掛川スタンダードをもとに、授業案を作成し、ALTとの打ち合わせを丁寧に行う。また、デジタル教材を有効に活用し、外国語の表現の仕方、文化の違い等にたくさん触れる機会をつくる。また、英語の歌やチャンツ、英語のゲームなどを授業に取り入れ、親しみやすくする。

また、火曜日（月2回）の朝活動（モーニングE）では、全校放送で英語の歌、発音、英語による読み聞かせを流す。高学年については、放送のない火曜日の朝活動で、アルファベットや英単語の視写をする。

◇基礎・基本の定着

・朝ドリルタイム・期末ドリルタイム

毎週金曜日の朝活動の時間を「朝ドリルタイム」として設定し、基礎基本定着のための時間として活用している。またステージ末の1週間は「期末ドリルタイム」として、基礎学力の定着を図る時間として、プリントや小テストを行っている。

・Weekend 漢字 try

定着度調査の結果により漢字の定着に課題が見られたことから始めた学習である。週末の家庭学習として、昨年度学習した漢字の内容に取り組んでいる。ここ数年の実践から成果が表れていることが分かり、本年度も継続して行う。

◇eライブラリーの活用

単元の終わり等のまとめとして、授業の中で活用する。また、家庭にも使い方ガイドを配布し、家庭学習にも役立てるように呼び掛ける。

◇ちゅうおう型生活・授業づくりチェックリスト

学びのユニバーサルデザインの視点に立ち、教師が日々の生活や授業づくりで意識する10の内容を共通理解し実践することで、授業の質の向上を目指している。



めざす姿

児童が「考えを伝えたい」「他の人の考えを聞きたい」という意欲をもち、対話しながら学び合う姿

掛川市立曾我小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

子どもたちは、聞くことはできてきたが、一方で、話す時、声が小さく、自分の意見を言うだけで満足してしまう子が多い。また入学の時から同じメンバーで気心が知れているため、なれ合った話し方をすることもある。そんな子どもたちに場にあった丁寧な言葉で話す力を身に付けさせ、自分の考えを聞いている人に分かりやすく伝える力を育てたい。そうすれば、話し手の考えと自分の考えを比べて聞くことができる子に育つのではないかと考えた。

研修テーマ

伝え合うことができる子をめざして

研究仮説

児童の実態を把握し、効果的な教師の仕掛け（揺さぶる発問・思考が整理され疑問がわく板書など）を全職員で考え、実践していくことで、有効な手立てを共有でき、授業者の日常の授業改善につながり、伝え合う子が育つだろう。

研究内容

3年計画でめざす子どもの姿を達成していく。平成29年度では、単元計画や学習課題、学習問題、今年度と来年度は、児童の実態把握、教師の仕掛けを研修の柱としていく。

児童の実態把握を生かした学習問題、教師の仕掛け

- ・ ノートや事前アンケートなどで一人一人の考えを把握する。
- ・ 自分の考えをもつ時間を保証する。
- ・ 授業の中で子どもの考えの変容を見取る。
- ・ 事前に着目児を抽出しておく。
- ・ 授業者の切り返しの発問を練る
- ・ 話し合いの機会を増やす小グループ活動を考える。
- ・ 子どもの理解や思考の助けとなるような板書を工夫する。
- ・ 明確な授業後の姿を設定し、それに合わせた教師の仕掛けをする。
- ・ 学習のまとめの時間を確保する。そこから授業評価をする。

1回の研究授業に対し、Pでは授業事前検討、Dでは授業実践、Cでは事後検討、Aでは共有した有効な手立てを日常の授業で実践、とした。本校には、特別支援学級を含めて8学級あるので合計8回の研究授業をこのサイクルで行っていく。

研修の取組

研究の柱＜授業評価の視点＞

- ① 子どもが解決したい課題や問いであったか。
- ② 教師の仕掛け（授業形態 板書 教師の切り返しなど）によって子どもたちが伝え合えたか。

上記の視点を子どもの姿で事後研修する。

まずは、子どもたちがどれだけ自分の考えをもっているのか実態把握をする。それから、単元計画、学習課題、学習問題を練り、さらに教師の仕掛けを考える。

特色ある学力向上への取組

【学習3の徹底】

学習3

- ・学習用具をそろえる
- ・聴き手を見て話す
- ・話し手を見て聴く

【朝の国語学習】

- ・漢字の習得・文章を書く読む
- ・言葉の使い方
(主語・述語・修飾語)
- ・チア・アップシートの活用

【読書指導】

- ・年間100冊達成
- ・必読図書のスペシャリストをめざす
- ・心ほかほか家庭読書週間 親子読書の取組
- ・読み聞かせ「ダンボの会」

【聞く話すのスキルアップ】

- ・聞き方・話し方の
レベルアップ表を用いた指導

【家庭学習】

- ・家庭学習のすすめを配付
- ・eライブラリーを活用

【朝の算数学習】

- ・計算問題
- ・前学年の復習
- ・チア・アップシートの活用

【外国語活動】

- ・掛川スタンダードの活用
- ・担任が授業を考え、ALTとの打ち合わせを綿密に行う

目指す姿

- ◎思ったこと、考えたことを言葉で、相手に分かるよう、伝わるように表せる子
- ◎話し手の考えと自分の考えを比べて聞くことができる子（付け足し・反対など）
- 話し手の考えを詳しく引き出すことができる子（反応する・質問する・言い換えなど）

掛川市立桜木小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 学習の流れの見通しをもち、目的意識がはっきりすると、単元をとおして意欲を継続できる子が多い。
- 対話活動を行う中で、子どもたちが互いを受容したり、承認したりすることができるようになってきた。
- 子ども同士の教え合いや聞き合いが自然にできるようになってきた。
- 個人で課題にじっくり取り組んだり、自分で課題を見付けたりする力がやや弱い。
- 対話の中で相手の考えを受け止めてから自分の考えを話したり、分かるまで質問したりする力がやや弱い。



研修テーマ

どの子ども学び続ける授業の創造 ～協力解決学習によって学びを深める～



研修の取組

柱1 「協力解決学習」に向かう場の工夫

追求課題に対して、協力して解決に向かう場を設定することで、どの子ども参加できる学びを生み出していきたい。解決へと向かう話し合いの中の「それってどういうこと?」「こうすればいいよね。」などの質問や応答をとおして、「その考えは分かりやすいね。」「そういうことだったのか。」と主体的、対話的に学びに向かっていく姿をめざしたい。

- (例)・発達段階を考慮した「対話」のグループ構成 ・対話でのめざす子どもの姿
・「協力解決学習」の援助となる方法(具体物、ワークシート、ホワイトボード)

柱2 「算数的な見方・考え方」を掘り起こすための工夫

協力解決学習によって出された子どもたちの学びの中から、その時間に出会わせたい「算数的な見方・考え方」(身に付けさせたい力)を教師の発問により掘り起こしていく。子どもたちが、見えていなかったことに気付いたり、できなかったことができるようになったりしていく中で、子どもたちがより深い学びの域に到達できるようにしたい。

- (例)・「見方・考え方」を掘り起こす発問 ・提示資料の工夫 ・具体物の操作

特色ある学力向上への取組

協力解決学習で主体的に学んでいく姿勢を育む

- ・自ら進んで解決したくなる課題の設定
- ・対話による解決の必要性を感じる難易度の課題の設定
- ・試行錯誤できる解決対象の設定

★子どもたちが協力解決学習をしたくなるような課題の設定

見方・考え方を掘り起こす学習で深い学びに結び付ける

- ・教科等の見方・考え方を掘り起こす教師の発問を工夫する
- ・子どもたちの考えを統合したり、関連付けたりする教師の切り返しを工夫する

★子どもたちが「〇〇と〇〇の考えは関係がある！」に気づくような発問

「学んでいく子」をフローテュース

「もっと学びたい」を感じさせる授業で学びに向かう力を付ける

- ・「学びの連鎖」が起こる授業を展開する
- ・「やりたくなる、考えたくなる」課題提示や揺さぶりの発問をする

★子どもたちから「早くやりたい!」「もっとやりたい!」の聲が上がる授業

学びのユニバーサルデザイン化で学習しやすい環境をつくる

- ・前面の掲示を少なし、落ち着いて学習できる環境をつくる
- ・授業の流れを分かりやすく提示する

★子どもたちが「落ち着いて学習できる!」「分かりやすい!」という環境

外国語活動でコミュニケーション能力を育む

- ・掛川スタンダードを活用する
- ・ALTとの打ち合わせを密に行う、連携を充実させる
- ・振り返りカードを活用し、活動内容の積み上げを意識できるようにする

家庭学習の充実で基礎・基本の定着を図る

- ・桜が丘学園で作成した「家庭学習の手引き」を用いて、家庭学習の指針を明確に示す
- ・家庭学習の教材として、eライブラリを有効に活用する

目指す姿

学んでいく子

○学習力・活用力をもった「学んでいく子」

○他者と共に学び「できた・分かった」を繰り返すことをとおして、学ぶ楽しさを知り、主体的に学習する「学んでいく子」

掛川市立和田岡小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・課題に対してまじめに取り組んだり、こつこつと丁寧に解決したりする子が多い。
- ・学級が一体となって解決しようとする意識は薄い。
- ・隣の友だち、グループの友だちには、自分の意見を伝えたり、聞いたりすることができるようになってきた。話し合ったことをクラス全体に伝えることもできるようになってきた。



研修テーマ

みんな楽しい！分かる！できる！授業づくり
～交流を通して高め合い、力をつける授業を目指して～



研修の取組

研究の柱（1）

単元計画に基づいた課題設定

- ・学習指導要領に基づき、ねらいを押さえ、本時のつけたい力を明確にする。
- ・単元計画でつけたい力をプランニングする。
- ・学習活動を焦点化する。
- ・子どもたちが思わず考えたくなる課題の設定をする。

研究の柱（2）

対話による学び合いの充実

- ・形態、時間を工夫する。
- ・目的をはっきりさせる。
- ・子どもの姿から有効な対話を判断し、取り組ませる。
- ・ふり返りの時間を確保する。



特色ある学力向上への取組

・朝の活動の時間にコミュニケーションタイムを設け、対話の基礎を築く。

・3年～6年で、金曜日の課外の時間に「ぐんぐんタイム」を設け、担任以外の教員も参加して個別指導を行う。

・家庭学習でeライブラリーを活用することで、児童一人一人の力に合った学習に取り組み、力を付ける。

・朝の活動の時間に、週1回のドリルタイムを設け、国語の読解ドリルに取り組む。

・長期休暇前の放課後に「放課後学習支援」の時間を設け、級外と地域の人材による個別指導を行う。

・外国語活動では、学級担任がT1になり、授業を進める。
・低学年は、朝活動の時間に月1回程度外国語活動の時間を設け、小さい時期から外国語への親しみを持たせるようにする。



目指す姿

- ・授業に前向きに取り組む子
- ・自分の考えを生き生きと表現し、友達と学びを深める子
- ・少し難しい課題にも臆することなく挑戦する子

掛川市立原谷小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度の研修の取組「付きたい力を明確にした単元・学習活動の展開」
「とことん学び合いをしたくなる発問の工夫」

- 素直で明るく、一生懸命取り組むことができる。
- 子どもたち自身が進んで解決しようとする姿が増えてきた。
- △自ら考え、自主的、主体的に取り組む力がまだ弱い。
- △学習の基礎基本が定着していない。



研修テーマ

主体的にとことん学び合う子どもの育成



研修の取組

<研究仮説>

子どもの思考や実態を捉えて、子どもの姿で授業を語る研修を行い、「とことん学び合いをしたくなる教師の手立て、子ども同士の関わり合いの方法」について検討していけば、子どもたちが主体的にとことん学び合い、より確かな学力を身に付けることができるだろう。

<研究の重点>

◇児童の思考を予想し、考えを出し合い追求したくなるような、教師の仕掛けと児童の適切な関わらせ方の検討をする。

① 追求のための有効な仕掛け

- ・問いを見い出せる教材の工夫
- ・解決の糸口を見通す場の設定
- ・思考を深める発問の投げかけ
- ・思考を引き出す表現方法の工夫

② 適切な関わり合い

- ・いつ(計画的な場面設定)
- ・何のために(目的の明確化)
- ・ペア、グループ(学習形態の工夫)
- ・振り返り(評価方法の工夫)



◇主体的に学ぶ子どもの具体的な姿(言葉・気付き・変容など)を単元構想図に表す。

◇子どもの言葉や表れで授業を振り返る。どんな手立てや子ども同士の関わり合いが学びを深めたか検討する。

特色ある学力向上への取組

◆聴く力・話す力レベルアップ

- ・すすんでつなげて発表しよう
- ・反応しよう
- ・レベルアップ表の掲示
- ・話し方や聴き方の掲示

◆スタディタイム

- ・毎週火、金の朝活動
- ・基礎学力の向上を目指す
漢字の読み書き、計算

◆チャレンジテスト

- ・年間4回
- ・80点合格。繰り返し挑戦

◆とことんホームワーク

- ・「学年×10分+10分」以上
- ・同じ場所、同じ時間帯に
- ・毎週火曜日に既習内容を
- ・保護者の見届けや丸付け
- ・eライブラリー

◆外国語活動

- ・原野谷中英語科教員
による授業
(5、6年生 毎週火曜日)
- ・新掛川スタンダードの活用
- ・デジタル教材の活用

原野小学校 伝え合いレベルアップ (英学年)

簡単レベル ところどころしきもち 共に高め合おう 難しいレベル

8. 先生の考えを言いながら自分の考えを述べられる	8. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
7. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	7. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
6. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	6. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
5. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	5. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
4. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	4. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
3. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	3. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
2. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	2. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる
1. 先生の話を聞きながら自分の考えを述べられる	1. 相手の考えをよく自分の考えに受け入れられる

やさしく話す あたたく聴く

伝え合いレベルアップ表



中学校教員による
外国語活動

目指す姿

考えを出し合い追求する子

みんなで学べたからわかった！

他にもっとやり方はないかな。

どうやるの？やってみよう！

◎仲間と関わり合いながら、自分たちで学び合いをしていきたいという思いをもって、授業を主体的に創っていかようとする子

◎聴く力と話す力を高め、伝え合う力が身に付いている子

◎漢字の読み書き、計算力を中心とした基礎学力が定着している子

掛川市立原田小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 授業の中で友達の意見を理解しようと聞く姿勢が見られるようになった。
- 友達の考えにつなげる発言ができるようになってきた。
- △学習に主体的に取り組む姿勢が低い。知的好奇心の高まりにまでつながっていない。
- △論理的思考力・表現力が弱い。なんとなく根拠を作り、なんとなく答えを導き出している。



研修テーマ

主体的にとことん学び合う子
～論理的な思考力・表現力の育成を意識した指導を通して～



研修の取組

「論理的思考力・表現力の育成を意識した指導」の研修を2年計画で進めていく。今年度は論理的に考えを「つくる」、次年度は論理的に考えを「つたえる」ことを中心に取り組む。

(1) 既習学習・算数表現の活用

子どもが新しい問題に取り組む時、考えの見通しを持ったり、作ったりするためには、必ず「既習学習・算数表現」が基となる。

- ・算数表現(4マス図・線分図・面積図など)の使い方を繰り返し指導し、それを使って考えるように促す。特に、初めての算数表現は、その使い方を徹底的に指導する。
- ・新しい単元に入る前に、必ず「じゅんぴテスト」を行い、既習学習の押さえをしておく。
- ・既習学習・算数表現を「算数アイテム」とし、算数アイテムを使って新しい問題を解決する意識を子どもに持たせる。
- ・算数コーナーを設置し、新しい単元に入るとき、単元の系統性を確認し、問題解決に必要な算数アイテムを掲示・展示し、子どもがいつでも使えるようにしておく。

(2) つなぎ言葉を活用した言語活動

筋道立てて自分の考えを作るために、「まず」「次に」「そして」「だから」といった「つなぎ言葉」を使えるようにしていく。そのために、つなぎ言葉を使って書く・話すなどの言語活動を授業の中に取り入れるようにする。また、発達段階に応じて、「例えば」「もし~だったら」のように類推的思考、帰納的思考、演繹的思考につながる言葉も紹介し、活用させていく。



特色ある学力向上への取組

基礎・基本の定着

- ・毎週火曜日の朝活動でドリルタイム（漢字計算・MIMなど）を行う。
- ・年4回「とことんテスト」を実施し、合格するまで、とことん再テストを行う。
- ・静岡県定着度調査・全国学力学習状況調査の分析を行う。

外国語活動の充実

- ・掛川スタンダードを活用した外国語授業を行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。

家庭学習の充実

- ・参観会や学年便りで、保護者に家庭学習の大切さを伝えていく。
- ・eライブラリーを活用した家庭学習を行う。
- ・家庭学習の時間「学年×10分+読書10分」を意識させ、音読カードなどに毎日学習時間や読書時間を記録させる。

原谷小・原野谷中との連携

- ・原谷小と、キラリ音楽発表会に向けての音楽交流（4・5年）や、市内陸上大会に向けての合同陸上練習（6年）を行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。
- ・原谷小と自然教室（5年）を合同で行う。
- ・原野谷中にて、原田小・原谷小の合同授業を行う。



目指す姿

全員が主体的に授業に参加し、 とことん課題を追究し、学び合う姿

自分の考えをみんなに伝えたい

友達の考えを聞きたい

もっと考えたい

もっと調べたい

もっとやってみてみたい

なんでだろう

例えば.....

.....と思う
だって.....

まず.....次に.....
だから.....

でも、.....

掛川市立西郷小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 自分から考え、動き出すきっかけをつかみ始めている児童や、学び方を理解し主体的に動く児童が見られた。
- ◆教師の仕掛けに対して、意欲的に取り組む児童と、そうでない児童の個人差が大きい。
- ◆話の大筋を捉えることができるが、語彙の乏しさがあるため、心情の機微を読み取ることが難しい。



研修テーマ

読む力の向上を目指した仕掛けの工夫



研修の取組

- ・国語科「読むこと」を窓口教科として行う。
- ・授業の基盤（ユニバーサルデザインの授業・授業の流れが分かる板書やノート）を大切にしつつ、「押さえる・仕掛ける・確かめる」の「仕掛ける」に焦点化し、
 - 既習の方法を生かして読み、新たな読み方の必要性をもたせて指導する。
 - 子どもの考えのずれから問題を焦点化し、読み深めて解決する発問を考える。
 - 一人一人が自分の考えをもてるよう、ペアやグループで考える効果的な場を設定する。を意識して授業改善を図る。
- ・単元が終わる時に、単元の初めの個の状態と比べ、単元全体を通して読む力が付いたかどうかの検証も進めていく。
→付けたい力が付いたかどうか、評価できるように子どもの変容を調査する。
- ・PDCAサイクルを意識し、学年部研修の充実を図る。



特色ある学力向上への取組

<学びの楽しさの実感>

- ・話す力・聴く力を高める。
- ・各学級「目指す授業像」を作成する。

<「学びの6か条」の定着>

- ・正しい姿勢・正しい鉛筆の持ち方
- ・ノートの使い方
- ・授業準備、チャイムで着席
- ・家庭学習の約束
- ・忘れ物なし
- ・筆箱の中身

<基礎基本の定着>

- ・授業の中で反復練習を位置付ける。
- ・学習の振り返りを重視する。
- ・朝の会で「音読タイム」
- ・「かがやきタイム」毎週火曜日朝活動
- ・「チャレンジテスト」長期休業前

<外国語活動の充実>

- ・新・掛川スタンダードや前年度までのワークシート等をもとに、担任が授業構想を行う。
- ・校内での伝達研修を実施し授業改善を図る。

<家庭学習での活用>

- ・eライブラリーの使用方法とIDを各児童に配布し、家庭学習で活用するようにする。
- ・「いえ読」を呼び掛け、読書好きな子を増やす。

<校内研修の充実>

- ・「光村の国語」構造と系統の表を活用し、読む力の向上を目指す。
- ・外部講師に来ていただき、授業改善を図る。
- ・ユニバーサルデザインの授業を進める。
- ・「仕掛ける」をキーワードに読みを深める発問や効果的な場を設ける。



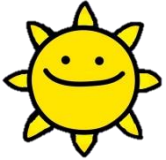
目指す姿

自分で考え、判断し、共に学び合う子

掛川市立倉真小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態



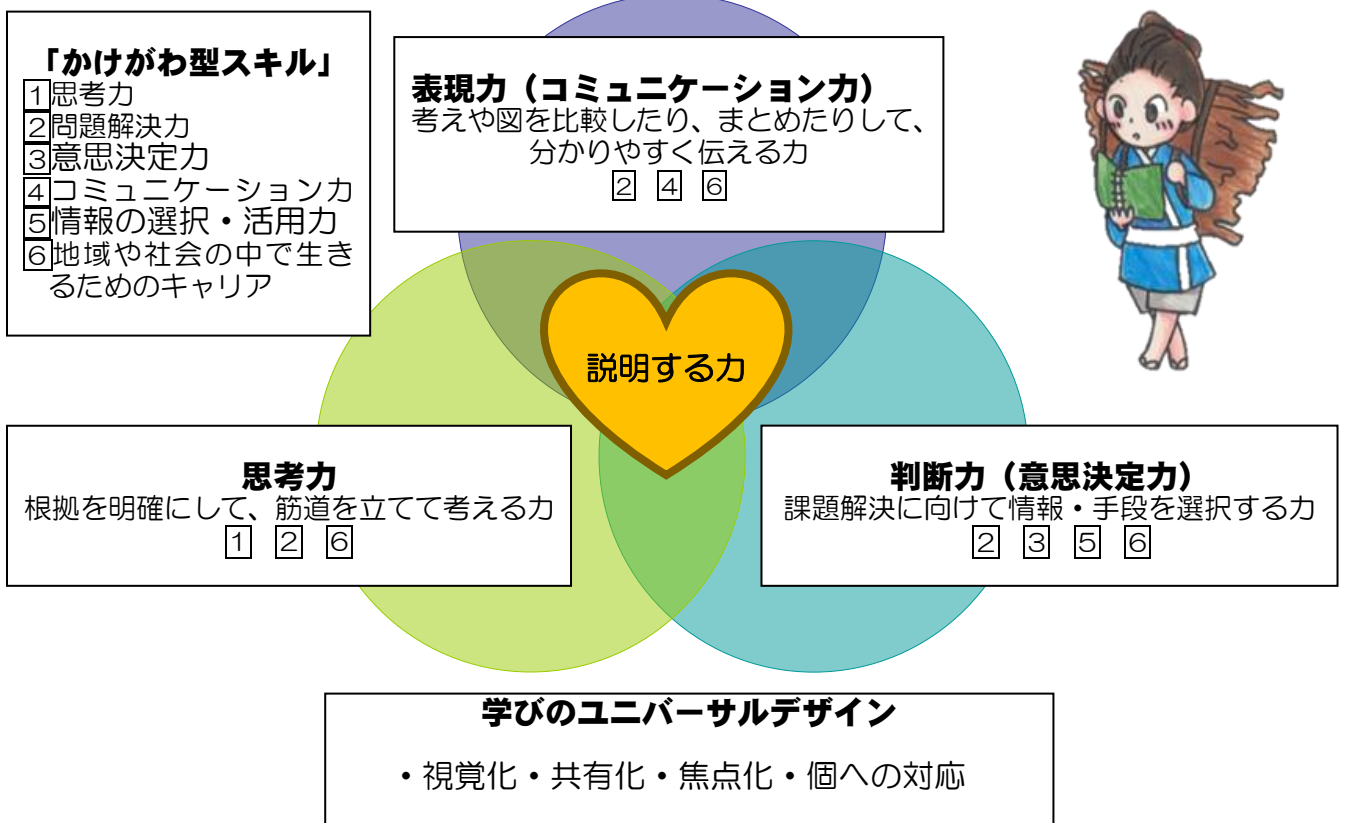
- ICT を効果的に使い、自分の思いや考えを表現する力（表現力）
- 課題解決に向けて情報・手段を選択する力（判断力）
- 根拠を明確にして筋道を立てて粘り強く考える力（思考力、主体性）

研修テーマ

「説明する力を身につけた子」の育成
～思考力を高める学習課題の設定を通して～

研修仮説

思考力を高める学習課題を設定することで、説明する力を身につける子を育成することができるであろう。



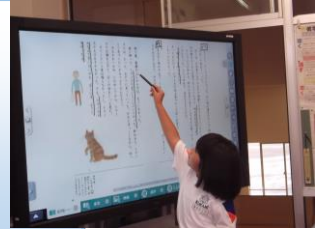
特色ある学力向上への取組

子ども主体の授業

- ・ 目指す授業像の掲示
- ・ 聴く、話す、話し合う、書く 学習スキルの習得
- ・ ICT機器の効果的な活用
- ・ 外国語教育の充実 掛川スタンダードの活用

基礎基本 (ドリル学習)

- ・ 朝計、朝漢、朝文による基礎学力の積み上げ
- ・ 冀北テスト（年4回）による定着の確認
- ・ 長期休業中の補習学習（学習寺子屋）
- ・ 全学年共通のノート指導、ノート展
→文を書くのが楽しい子の育成



音読指導

- ・ 詩の音読（週3回）
- ・ 音読チャレンジ週間の設定（年間6回）

読書活動の充実

- ・ 朝読書（週3回）→読書記録を残す
- ・ 読み聞かせ（教師、ボランティア）
- ・ 身近な図書コーナーの設置（2・3階）



冀北学習

- ・ 主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・ 体験を伴った探究活動
- ・ 「冀北発表会」で地域に発信

課題調査の分析

- ・ 学力調査結果の分析を基にした課題の検討
- ・ 授業改善（押さえる、仕掛ける、確かめる）

家庭学習支援

- ・ 「家庭学習の手引き」を基にした家庭と学校の共通実践
- ・ 授業日記で授業を振り返り、次の学びに生かす
- ・ 倉真っ子チャレンジカードの活用（進んで家庭学習）
- ・ eライブラリー

目指す姿

- 低学年・・・自分の思いや考えが友達に伝わるように説明することができる子。
- 中学年・・・自分の思いや考えを整理して、相手に伝わりやすい方法を工夫して、説明することができる子。
- 高学年・・・根拠を明確にして、筋道を立てて考え、効果的な情報や手段を選び、伝え方を工夫して説明することができる子。

掛川市立土方小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- ・与えられた課題に対して、一生懸命取り組む、素直な子が多い。
- ・交流活動に慣れ、かかわりながら学習を進めることができる。
- ・他者意識が弱く、自分の意見を相手に伝えることに消極的な子が多い。
- ・自分の言葉で考えを相手に伝える力や、話し手の意見をしっかりと聞き取る力が不足している。
- ・「自ら解決したい」「自分の力を高めたい」という、向上心や主体的な意欲に欠ける。

研修テーマ

伝え合い、「問い」を解決する授業

研修の取組

仮説1

- 学習課題から子どもたちの「問い」が生まれることでその解決に向けて本気になって学ぶ子が育つ。
 - ・思考のズレを生む学習課題の提示
 - ・ICT機器の積極的な活用

仮説2

- 交流活動によって、友達と伝え合いながら学ぶことで、互いの思いを伝え合うことができる子が育つ。
 - ・発達段階を考えたペア・グループ活動
 - ・知識構成型ジグソー法



特色ある学力向上への取組

家庭学習

- ・毎週末に家庭学習として日記や作文を書く。書いた日記は、保護者に読んでもらってから提出する。
(土方小日記)
- ・全校統一の学習カードを使用し、子どもが自分で家庭学習や予定の管理ができるようにする。
- ・eライブラリーアドバンスの活用。

外国語教育

- ・「毎週木曜日はイングリッシュデー」とし、朝の放送や始業、終業のあいさつを英語で行う。
- ・掛川スタンダードを基本に城東学園3校で高学年 70 時間、中学年 35 時間、低学年 10 時間の実施。

学習言語系統表

- ・「話す」「聞く」「読む」「書く」ことについて、低中高学年ごとにそれぞれの段階でつける力を決め、指導する。

読書活動

- ・1年間の個人目標を「年間 50 冊」に設定する。
- ・学年ごとに学校司書が選定した「必読図書」20 冊を設定する。

放課後学習

- ・地域ボランティアによる、児童の学習機会。
- ・eライブラリーを活用していく。



目指す姿

「主体的に学び続ける子」

- ・互いの思いを伝え合うことができる子。
- ・「問い」の解決に向けて、本気になって学ぶ子。

掛川市立佐東小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は、『主体的に学び、「できた」「わかった」を実感できる授業』を研修主題とし、主体的に学ぶ子の育成に取り組んだ。研究の重点として、①導入部分で子どもの興味や関心を引く教材との出合わせ方の工夫、②問いを焦点化するための工夫、を研究した。その結果、次のような実態が明らかになった。

○焦点化によって考える内容を明確にしたことで、課題に対して自分の考えを書く量が増えた。

○見通しが示されることで、「できそうだ」「よしやろう」という気持ちが高まった。

▲基本的な土台（基礎学力・聴く力・伝える力）が不十分なため学びが広がらず停滞した。

▲一つの考えを書くことで満足してしまい、考えに深まりが生まれてこなかった。



研修テーマ

児童が対話を通してまなんでいく授業
～対話を生み出す交流活動の工夫を通して～



研修の取組

研究の重点：対話を生み出す交流活動の工夫

つきたい力の明確化
実態把握
教材研究

精選された
課題や問いづくり

<対話の場の設定>

- ・対話のねらいの明確化（何のために）
- ・対話の場の位置づけ（どこに）
- ・対話するグループの構成（ペア・3人組・発達段階）
- ・対話の方法の工夫（ジグソー法など）
- ・対話を援助する方法（具体物・資料・ワークシート）
- ・考えを共有するツール（ICT・まなボード）
- ・対話のための環境（座席・掲示物）

導入の工夫

振り返りでの
言語化

個への対応





特色ある学力向上への取組

落ち着いたある教室環境づくり

- ・ 教室内のコーナーを統一
- ・ 学び合いコーナーを設置
- ・ すっきりした全面掲示

読書指導・読書環境の充実

- ・ 朝活動は読書を行う
- ・ 毎週末は、家読・親子読書の実施
- ・ 読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ
- ・ 必読書を選定し、質の向上を図る
- ・ 学校司書の活用

まなんでいく姿勢を支える

- ・ 学びじまん月間（4月）で意識作り（学習用具・チャイム席・あいさつ）
- ・ 学年ごとに設定する〇〇チャレンジ（計算カード・九九・ローマ字など）
- ・ 定着度調査の分析と個への支援

放課後学習・家庭学習

- ・ 学びっ子タイムで基礎の定着を図る
- ・ 保護者による見届け
- ・ eライブラリーによる自主学習

本音で語る道徳科

- ・ 中心発問（テーマ発問）の工夫
- ・ 対話するグループの工夫（ペア・班）
- ・ 思いを引き出す仕掛け（具体物・視覚）
- ・ 一斉道徳参観日の設定
- ・ 道徳コーナーの設置
- ・ OJTによる教材研究

城東学園で連携した外国語

- ・ 1～2年生 10時間、3～4年生 35時間、5～6年生 70時間の時数
- ・ 小小連携による指導内容の統一化
- ・ 新かけがわスタンダードの活用
- ・ OJTによる教材研究



目指す姿

学校教育目標

力の限り 挑戦する子

重点目標

まなんでいく子

知：子ども同士が本音で関わり、課題を解決できる

徳：学年の発達段階に応じた、自己判断力が高い

体：めあてに向かって、こだわりを持って取り組む

掛川市立中小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

【昨年度の研修の成果】

- ・ 目指す子どもの姿を、「深化」「変容」「創出」の3つに具体化し、職員間で共有することで、日常の授業でも思いや考えを深め合うための発問を意識することができた。

【昨年度の研修の課題】

- ・ 子どもが自分の問いをもって学んだり、自分の思いや考えをもとに対話し論理的に深めたりする授業と校内研修におけるPDCAサイクルの日常化。
→ 子どもたち一人一人の、学習者としての主体性が不十分。



授業の話し合い活動において、リードされる子どもとリードする子どもの固定化

【城東中学校区小中一貫教育研究指定1年次とのつながり】

目指す子ども像「城東を愛し未来をたくましく生き抜く子ども」を具現化するために、育成する資質・能力の重点をコミュニケーション力とした。

研修テーマ

コミュニケーション力の育成
～子どもの中に問いや目標が生まれる授業を目指して～

研修の取組

- (1) 日常的に、一貫教育カリキュラムの「いい授業」づくりの力を高めるための、外国語活動、生活科・総合的な学習の時間、道徳科における授業について研究する。

ア 外国語活動

コミュニケーションの素地を育成するための活動の工夫に焦点化した授業研究
→ 効果的な活動についての研究を深める。

イ 生活科・総合的な学習の時間

- ・ 年度初めに1年間を見通した指導計画を作成し、他学年と比較・検討
 - ・ 課題を追求する力、人や社会と関わり合う力、自分を見つめる力とコミュニケーション力を育成するための授業研究
- 教材や課題の設定、単元構成、地域の教育力活用等について研究を深める。

ウ 道徳科

道徳的心情とコミュニケーション力等を育成するための、発問の工夫に焦点化した授業研究→効果的な発問の在り方について研究を深める。

- (2) 日常的に、研修における、目的、視点、成果・課題を焦点化し一貫させる等、PDCAサイクルを実行する。



特色ある学力向上への取組

3つくりの重点活動を授業とする

- 学びづくり…外国語活動、生活科・総合的な学習の時間、小小・小中の交流活動の授業
- 心づくり…道徳科、小小・小中の交流活動の授業
- 体づくり…体育科、小小・小中の交流活動の授業

3つくり部が作成した各教科の『「いい授業」づくり』の内容を、各学級において日常的に実践研究する。→教師の授業力向上を図る。
→コミュニケーション力等を育成する。

城東中学校区小中一貫教育研究計画に沿って研究を進め、一貫教育カリキュラムの改善案作成等を行う。

- (1) 外国語活動…小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムの作成→実践研究 新掛川スタンダードの有効活用
- (2) 道徳科…地域素材(偉人)を題材にしたかけがわ道徳を有効に使い、教科化による「考え、議論する道徳」に対応したカリキュラムの作成→実践研究
- (3) 総合的な学習の時間…身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てるカリキュラムの作成→実践研究

中小日記 …「書くこと」の指導

【ねらい】

- ① 6年間継続して書くことで、基礎学力のもとになる「書く力」が身につけさせる。
- ② 書いたものを紹介し合うことで、自分や友達のよさやがんばりを感じさせる。

【方法】

- ・金曜日の朝の時間に日記を書く。
- ・学年ごと、全員に身につけさせる指導事項を設ける。

家庭学習の充実

【ねらい】

自ら学ぼうとする習慣づけを図る。

【方法】

- ・城東学園家庭学習7か条の重点目標「学年目標時間(10分×学年+10分)の学習」を目指す。
- ・学校での学習内容を伝える「お茶の間学び発表会」を行う。
- ・eライブラリーの活用を促す。



目指す姿

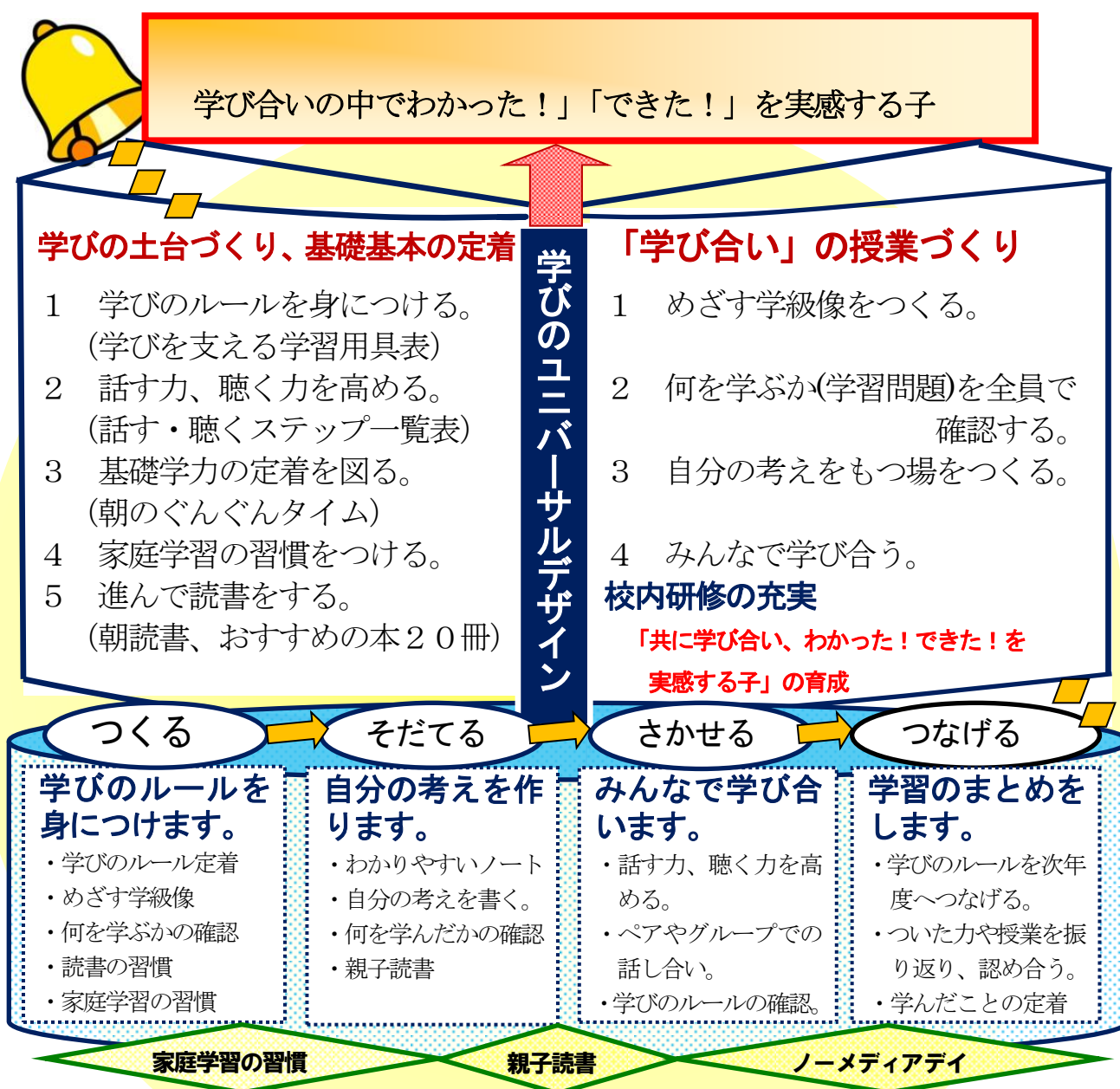
自分から学ぶ子 人から学ぶ子

掛川市立大坂小学校

平成30年度 我が校のものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中で個の確立を目指していきます。平成30年度は「さあ、やってみよう みんなでいっしょに」を重点目標に、集団生活の中で、他と関わり合いながら、自分のもっている力に気づき、それを生かそうと努力する児童の育成に努めていきます。

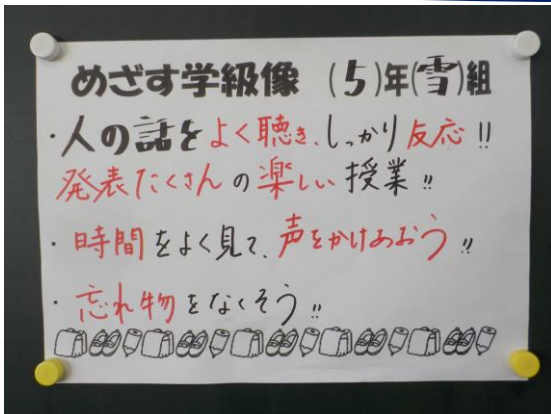
「学びづくり」の取り組みでは、「学び合いの中で『わかった!』『できた!』を実感する子」の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり、基礎基本の定着 ②「学び合い」の授業づくり の両輪により確かな学力の育成を進めていきます。



「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校評議員会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化

つくるステージは、学びのルールを身につけます。



各学級の「めざす学級像」決定!



「学びを支える学習用具」をみんなで確認し、学習の構えをつくるためのルールを身につけます。

そだてるステージは、自分の考えを作ります。



学びのユニバーサルデザイン
考えの流れがわかる板書づくりをします。



ICTの活用
いろいろなツールを使い、考えを作ります。

さかせるステージは、みんなで学び合います。



外国語活動話
全学年、1年を通して取り組んでいます。



ペアやグループでの交流
自分の考えを友達と深め合います。

つなげるステージは、学習のまとめをします。

掛川市立千浜小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

平成29年度は「自分から考え、学び合う子」を研修テーマに、国語科を窓口として研修を進めてきた。多くの学級に、家庭での言語が日本語でない児童や発達障害のある児童がいるため、ユニバーサルデザインを意識した授業に取り組んできた。

- ・子ども自身が見通しをもって自分から考える姿が増え、交流の場で学び合う姿が広がりつつある。だが、主体的な学び、学びの実感、学習内容の定着は不十分である。

研修テーマ

「主体的に 学び合う子」

研修の取組

新学習指導要領でも、「主体的・対話的で深い学び」を通して、指導事項を実現することがねらいとなっている。昨年度までは、10年間近く国語科を窓口教科として、研修を行ってきた。

しかし、子ども自身が成長を実感しているかと問うと、満足しているとは言えない。そこで、今年度は、子ども自身に学びの実感がもてるよう、窓口教科を算数科とすることにした。

また、昨年度は、講義的（受け身）な授業よりも、自分で活動したり話したりする授業の方が学力が高まるという考えから、教師が授業の中に交流の場を意図的に設定してきた。本年度は更に、子どもが主体的に学べるよう、子ども自身から「交流したい」という必要感のある問題設定をしていきたい。



特色ある学力向上への取組

○実態把握（押さえる）

- ・ 単元前のレディネスチェック
- ・ 前時の振り返りからの実態把握

○家庭との連携

- ・ 家庭学習の手引きを配布
- ・ eライブラリーの推奨
- ・ 毎日、家庭読書（親子読書・並行読書）
- ・ 必読図書の設定

○ユニバーサルデザインを意識した授業

- ・ 1時間の授業が見通せるミニホワイトボードの活用（ゴールの姿）
- ・ 中学校区で統一した問題は赤枠、まとめは青枠の板書

○学びのあしあとを生かし、必要感のある問題設定（仕掛ける）

- ・ ICTの活用
- ・ 困っていること、分かったことを自分の言葉で伝える
- ・ 学びコーナー（算数用語等の掲示）

○思考を大切にした板書や振り返り（確かめる）

- ・ 学習問題とまとめがつながる板書
- ・ 振り返りに友達の名前を入れる

○外国語教育

- ・ 掛川スタンダードの活用
- ・ 3、4年生は、月ごと交代で単元をまとめて行う。
- ・ A L Tとの連携



目指す姿

- ・ 学びのあしあと（何をどのように学んできたか）を生かして、主体的に学び、学びの実感をもつ子
- ・ 困っていることや分かったことを自分の言葉で伝え、よりよい課題解決に向けて学び合う子

掛川市立横須賀小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態 (H29年度 成果と課題)

- 人とかかわることへの関心が高まり、友だちと話してみたい、聞きたいという気持ちが盛り上がっていくことで、対話的な雰囲気ができた。
- 外国語の授業の特性を生かして、自分のことを話したり、相手のことをもっと知りたいという気持ちをもったりするなど他者理解が深まった。
- ☆人とかかわりの場面では、同じ学級の友だちや同じ学年の友だちに限定されていることが多いので、さらに広げて、他学年や、様々な人とかかわるなど、新しい場面にチャレンジさせていく。
- ☆外国語活動だけでなく、他教科でもコミュニケーションの力を発揮させる必要がある。



研修テーマ

主体的・対話的で深い学びの実現
—進んでコミュニケーションを図ろうとする子を目指して—



研修の取組

- 1 コミュニケーションを意識した授業
 - ・3つのGOOD (Good eyes, Good voice, Good heart)を意識して、学習問題や課題、活動などを設定する。
- 2 外国語活動の授業力の向上
 - ・授業スタイルの確立
 - ・目標に合わせたActivityの選択
 - ・Main Activityを通して、目指すコミュニケーションの姿を身につけさせる。
- 3 国語科における主体的・対話的で深い学びのための手立て
 - ・授業設計シートの活用
 - ・よりよい授業設計シートの開発





特色ある学力向上への取組

◇外国語活動◇

- ☆水曜日はイングリッシュ・デー
- 朝活動…Eタイム 英語を親しむ活動
 - ・eライブラリー「サンセットタウン」で聞く活動
 - ・「ペンマンシップ」を使って書く活動
 - ・チャンツや歌など声を出す活動
 - ・英語の本の読み聞かせなどで聞く活動
 - ・カードゲーム（単語数5～6個）で聞く、声を出す活動
- 朝のあいさつは「Good Morning！」
- 朝、下校の放送は英語で
- ☆英語の掲示物

◇少人数・TT指導◇

- ・5、6年生の算数…習熟度別少人数
 - ・2年生の算数…TT授業
- 少人数やTT授業を行うことで、基礎基本を定着させる。

◇ICT機器の活用◇

- ・ICTを効果的に活用した授業
- ・調べる、まとめる、伝えることでの活用

◇家庭学習の習慣化◇

- ☆学年ごとの家庭学習時間の目安の提示
- ☆eライブラリーの活用
 - ・ホームページからの簡単アクセス
- ☆自主学習の奨励

◇読書指導◇

- ☆朝活動での開き読み、読書
 - ・図書ボランティアによる開き読み
 - ・読書カードの活用
- ☆学校司書の活用
 - ・読書の時間や授業での本等の紹介



目指す姿（コミュニケーション）

- ☆低学年：かかわりを楽しむ
 - ・友だちのことを聞いたり、自分のことを話したりするのは楽しいな。
 - ・新しい言い方を覚えてうれしいな。
- ☆中学年：進んで交流する
 - ・今度は違う人とも話したいな。
 - ・もっとたくさんの友だちと話したり、話を聞いたりしてみよう。
- ☆高学年：交流を広げたり深めたりする
 - ・友だちの意外な一面を知ることができた。
 - ・自分が思っていたことと、相手の考えが違っていたよ。

掛川市立大渕小学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

平成29年度 研修テーマ「伝え合い 力をつける授業」

成果

- ・伝え合いたくなる相談・交流を工夫することによって、話すことが苦手な子どもも1対1や少人数での伝え合いへの抵抗が減り、授業の中での発言が増えた。

課題

- ・自分の考えを伝え相手の意見を知ることによって満足してしまい、相談・交流や全体の場面で学びを深めていけない。



平成30年度研修テーマ

「自分の考えをもち 学び合う子を育てる授業」

研修の取組



1. 学びの継続を生み出す単元構想

つけたい力を明確にし、子どもの思考の流れを想像しながら、子どもが主体的に学びたい単元構想を作成する。その際、子どもと単元のゴールの姿を共有することによって、自分たちで学習計画を立てたという思いをもたせる。

2. 追求したくなる発問

追求したくなる課題や学びを深める発問を考えると共に、発問の投げかけ方の工夫も考える。また、主体的な学びに取り組む姿勢を引き出すために、自分の考えをもたせる手立てを用意する。それらを、模擬授業を取り入れた事前研修で検討し、事後研修では子どもの言葉や姿で検証していく。

3. 学びを深める相談・交流

課題に対する自分の考えをもち、全員を学びの土台に乗ったことを確かめた後、自分の考えと同じなのか違うのかという視点をもたせながら、相手の意見を深く知ろうとしたり、理由を確かにしたたりする相談・交流を行っていく。さらに、その相談・交流の中で生まれた問いや新たな考えを全体に投げかけ、全体での学び合う姿を引き出していく。





特色ある学力向上への取組

目指す授業像の共有

年度初めに、学び合う姿を話し合う。そして、自分の取り組むべき目標を見極め、掲示し日々振り返ることで、成長を確かめていく。

また、分かりやすい話し方、聴き方語録を学級の宝として掲示する。

わくわくタイムの活動

(月、木、金曜日の朝 15 分間)

漢字、計算、読解力の向上を目的に実施する。問題は 5 分程度で解くことができるプリントを用意し、終わった子から読書をする。個別指導の場としても活用する。

外国語教育の推進

掛川スタンダードを活用する。

ALT との打合せを確実にし、子どもたちに楽しく分かりやすい外国語活動・外国語の学習を行う。授業の流れを全学年統一して全員が学習に取り組めるようにする。

漢字・算数マスターテスト

(7 月初旬、11 月末、2 月中旬)

日々の授業、家庭学習で取り組んできた漢字と算数全般の理解の確認と定着を図るために実施する。基本 80 点を合格とし、合格するまで繰り返し挑戦させる。

放課後学習支援「寺子屋」

年間 9 回金曜日の放課後に行う。基礎学力の定着を目的とし、学級の実態に合わせて、全体で行ったり、取り出し指導を行ったりする。マスターテストと連動させて個別指導を行って理解させる。

家庭学習 (学年×10 分+10 分)

音読、漢字、計算を中心に取り組む。本読みカード等で家庭と連携して見届け、指導していく。

また、e ライブラリの活用法を知らせ、自主的な取り組み奨励していく。

目指す姿



重点目標「みがこう自分を 高め合おうみんな」の具現化された姿として

*自分の考えをもつ。

*よさや成長を認め合う。

*自分から一歩踏み出す。

*高め合い、学び合い、

*目標に向かって努力を続ける。

みんなでよりよいものをつくっていく。

**☆一歩踏み出し、
努力を続ける子**

**☆自分の考えをもち
学び合う子**

中学校

掛川市立栄川中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

<昨年度の成果と課題>

- ねらいをもった交流を位置づけ、交流の場面やさせ方を工夫することによって、目的をもって話を聴いたり、わかりやすく伝えようとしたりする姿が増えた。
- 意欲的に交流活動に取り組みたくなるような課題設定をすることによって、自分の考えと友達の考えを比べ、お互いに深め合おうとする姿が増えた。
- ▲特定の生徒が話を進め、意見が偏ってしまう傾向が見られる。
- ▲限られたコミュニティーの中で生活しているため、自ら関わろうとする意識が低い。
- ▲自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。

研修テーマ

「進んでかかわり 学び合う生徒」の育成

研修の取組

<研修の重点>

『学び合い』を意識した授業づくり

<仮説>

- ① 学習問題（深く追究させたい課題）を設定し、小集団でじっくり考えさせることが、生徒一人ひとりの問題解決力やコミュニケーション力の向上につながるだろう。
- ② 小集団活動で互いの意見を交わし、議論することにより、生徒一人ひとりの深い学びにつながるだろう。
- ③ 「学びのUD」の視点に立った支援をすることで、すべての生徒を学びのステージに立たせることができるだろう。

平成29年度は、『学び合い』の形態の研修を積んできた。そのため、今年度は、さらなる向上を目指して研修を進めていきたい。具体的には、小集団活動の質的な向上を図りたいと考える。たとえば、話し合いの場でどんな交流が行われているか、その交流は、目標に迫る有効的な活動となっているのか等を検証していくことを研修していきたい。

学力向上への特色ある取組

<英語活動>

毎週火曜日に3年生を対象として8:00~8:15の15分間で、英語コミュニケーション活動に取り組んでいる。

リスニングと単語当てゲームなどの活動を通して、スキルアップを図っている。



<読解力向上学習>

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本校の生徒は文章の読解力に課題があることがわかった。そこで、その課題の克服のために、授業の改善はもちろんだが、週一回新聞記事を読み、内容理解を深めるための問いを数問解き、理解した内容について友達と数分間ディスカッションするという活動を行うことにした。

これは「新聞を読んでいる生徒の方が全国学力・学習状況調査の結果が良い」というデータに基づくとともに、3年生にとっては高校入試の面接試験をも見据えた活動となると考える。



<家庭学習>

各教科の提出物に加え、チア・アップシートやeライブラリーを活用している。

特に、3年生については、入試対策としてeライブラリーにある入試の過去問題に取り組んでいる。本年度も継続的に活用することを予定している。

目指す姿

- ① 考えを比べながら聴き、伝え合う姿
- ② 仲間と協力して、課題を解決する姿
- ③ 自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿

掛川市立東中学校

平成30年度 我が校のものがたり

起

東中生の姿（現状）

- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- 明るいあいさつ、正しい服装・美しい身だしなみが身につけており、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 交通ルールとマナーの向上に、より一層努力をさせたい。

承

本校生徒の目指す姿（さらなる高みを目指して）

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」

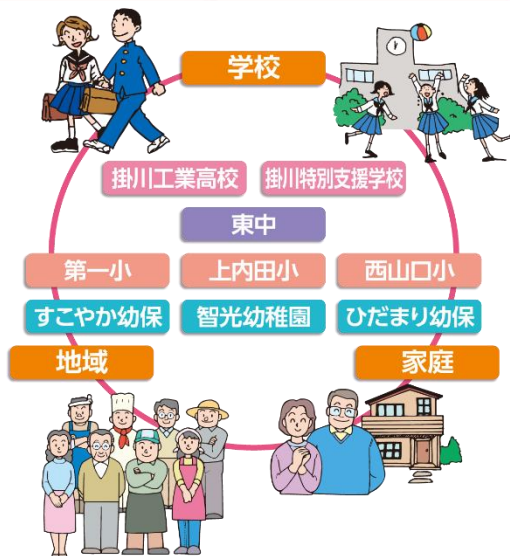
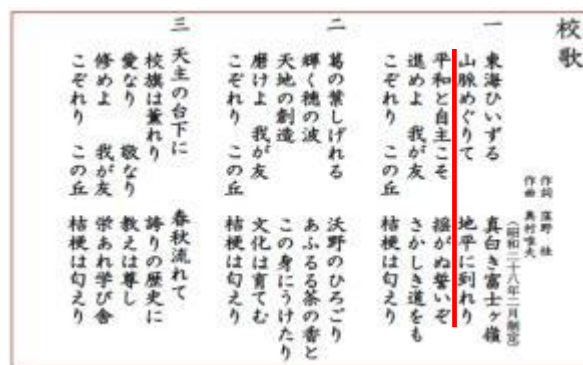
平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌いながら宣言します。

- 地域と共にある学校

中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人ひとりを育てます。

- 学び合う力の育成

グローバル社会を生き抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。



キーワードは「学び合い」

全ての教育活動で、「学び合い」を基本に取り組みます。また、取組を継続的に検証し、教育活動の改善につなげていきます。

東中アクションプラン

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入
- 外国語教育におけるICTの活用（話すことのパフォーマンスをタブレットで録画し相互評価）

仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しかけやすい」「顔を見て話せる」「気持ち伝わる」
「みんなで協力して授業ができる」等、
仲間と力を合わせてつくり上げる授業をめざしています。

やる気の共有
仲り感の共有

お互いの顔が見え、教室が明るく安心して学べる場となっています。

難しい問題も力を合わせればきっとできる。

考えたことを仲間に伝えよう。

学力ある授業がいっぱい。

学習活動別学習効果

聞いたとき	10%
見たとき	15%
聞いて見たとき	20%
話し合ったとき	40%
体験したとき	80%
教えたとき	90%

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。

また、授業改善が確実に成果に結びついているか、毎年実施する学力調査、生徒アンケート等の経年比較を基に、評価と改善策の検討をします。



総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題について考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生「掛川を知る」

フィールドワークでは地域のいろいろな施設を訪ねました。

2年生「掛川で働く」

さまざまな事業所で一年懸命働きました。

3年生「掛川を考える」

掛川の観光や歴史について満腹を踏みました。掛川の良さや魅力を熱く語っていただきました。

「働くことの意義」について、実際の仕事の内容を含めてご講話をいただきました。



仲間との「学び合い」の中で、生徒全員が「わかった」「できた」を実感する

現在の東中は、生徒らが学び合い、柔らかな雰囲気の中で力を伸ばしている。平成29年度も全国学力量学習状況調査の全国平均も国語、数学ともに上回った。東中生の学びに向かう姿はすばらしく、問いに対して自分なりの考えをもち、仲間と進んで関わり合い、時には論理的に、時には批判的に、時には創造的に、仲間と悩みながら話し、その考えをより豊かに磨き上げている。生徒は、互いに学びを深める大切な仲間であると捉えている。東中の学び合いは今後も更に深化し続ける。

掛川市立西中学校

平成30年度 我が校のものがたり

- やるべきことをまじめに取り組む
- 伝え合い練り合うことができる
- 聞く姿勢がよい
- 課題の提出率が高い

生徒の実態

- ▲学力の定着に差がある
- ▲論理的に考え説明する力
- ▲自ら考え行動する力（自主性）
- ▲打たれ強い心（忍耐力）

研修テーマ 「自ら学び、共に学び合う生徒の育成」

各教科

【主体的に、自ら学ぶ 授業】

◎一人ひとりが「わかった」「できた」を実感できる授業

- ・授業をユニバーサルデザイン化し、一人ひとりが授業で達成感を味わう。
- ・「板書」「まとめの時間」の再構築

◎基礎・基本の定着（確かな学力の定着）

【仲間を大切に、共に学ぶ授業】

◎共に学びながら、深い学びを生み出す授業

- ・問題解決型の学習を取り入れる
- ・学習問題の精選
- ・個人の「追究」時間の確保と充実
- ・ペア活動や小集団活動の積極的な活用
- ・聞き手が情報を主体的に受け取り、受信&分析する授業

研修の取組



道徳科

【心豊かに、共に学び合う 道徳】

◎「考え、議論する」授業

- ・問題解決型の学習
- ・道徳で「主体的・対話的で深い学び」の実践
- ・ローテーション道徳の推進

◎評価の視点

- ・大きくりなまとまりを踏まえた評価
- ・生徒の成長を励ます記述式の個人内評価
- ・多面的・多角的な見方への発展と他と関わる中で
の考えの深まりを評価

◎評価の仕方（個人内評価）

- 「授業記録」「エピソード記録」「アンケート」
- 「自己評価と相互評価」
- 「作文やノートの記述」「聞き取りやインタビュー」

日々の授業の土台

かけがわ型授業

【授業実践項目】

- 1 必ず具体物を持っていく
- 2 授業の流れが分かる板書
- 3 学習課題は青、学習問題は赤枠で囲む
- 4 生徒同士の「かかわり」場面を設定
- 5 授業のまとめを大切にする

【授業のユニバーサルデザイン化】

◎一人ひとりを大切にした授業

- 1 主体化…興味や関心を持たせ、
粘り強く取り組ませる
- 2 焦点化…分かりやすい発問・指示・活動
- 3 展開を構造化…論理的で明示的な展開の工夫
- 4 スモールステップ化…学びの障壁をスムーズにする
- 5 視覚化…「見える」情報伝達

【追究場面を大事にした授業】

- 1 シンプルかつ興味のわく導入
- 2 追究場面に十分な時間をとる
- 3 まとめの時間を確実にとる
 - ・導入（5分）
 - ・学習問題（5分）
 - ・追究（25～30分）
 - ・まとめ（10～15分）

特色ある学力向上への取組

一人ひとりが「わかった」「できた」を
実感できる授業と確かな学力の定着

- ① 授業実践5項目の徹底
(名札に入れ意識化)
- ② 授業のユニバーサルデザイン化
- ③ ICTを取り入れた授業
- ④ eライブラリーを利用した家庭学習紹介
- ⑤ IBAを活用した英語力向上
- ⑥ 技術・家庭科における Pepper を利用したプログラミング学習

道徳の授業力向上

- ① 総合教育センターから講師を招聘
(「考え議論する道徳」について学ぶ)
- ② 道徳主任による『道徳だより』の発行
- ③ 学年道徳主任が毎時の授業展開を提示
(問題解決型の学習を取り入れる)
- ④ 道徳指導案を共同で作成する校内研修
- ⑤ ローテーション道徳の実践
(教員同士が授業を見合い授業力向上)
- ⑥ 「振り返りカード」を全学年で使用
(評価を見通した資料づくり)
- ⑦ 教室掲示「道徳コーナー」を設置
(道徳の授業で扱った価値が見える化)

掛西学園（5園4校）の連携

- ① 学習のルールの徹底
(友達の方を向いて、最後まで聞くことができるようにさせる。聞くときは聞く、書くときは書く。)
- ② 家庭の共通実践項目を設置
(基本的な生活習慣の確率「早寝早起き朝ご飯」)
- ③ 教師の共通実践項目を設置し取り組む
(学習の流れがわかりやすい板書、生徒の発言を大切に聞く、授業の中でどんどん褒める。)

読書環境の充実

- ① ボランティアによる読み聞かせ
- ② 集団読書
- ③ 教師による本の紹介
- ④ 市立図書館司書のブックトーク

地域に根ざした学校として

- ① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会）
- ② 近隣高校との公開授業による指導方法向上の連携

目指す姿（本校が目指す生徒像）

- 【夢に向かう生徒】
 - ・自らの目標に向かって主体的・積極的に取り組む生徒
 - ・自分らしさを発揮し、仲間と協力して、より高い価値を目指す生徒
- 【自立した生徒】
 - ・自ら学び、自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒
 - ・自らの言動に責任をもち、我慢強く最後までやり遂げる生徒
- 【共生できる生徒】
 - ・多様な生き方を認め、他者のよさに気づくことができる生徒
 - ・他を思いやり、美しいものに感動し、自他の生命を大切にする生徒

掛川市立桜が丘中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

- 真面目な生徒が多く、授業態度は良い。
- 指示されたことに対して素直に取り組む。
- 仲間とともに一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
- ▲粘り強さにやや欠け、難しい問題や困難な課題に対してあきらめしまう。
- ▲生み出された次の課題やより上の目標を目指して、自ら進んで取り組もうとする自主性にやや欠ける。

研修テーマ

生徒が主体的に取り組む授業づくり
～考えを深める手立ての工夫～

研修の取組

- ア 学習のプロセスを大切にした単元・題材づくりを意識
生徒の実態に即し、単元・題材で付けたい力を学習指導要領と照らして設定する。
- イ 考えを深めている姿の設定
一時間ごと、思考して考えを深めた生徒の姿はどんな姿か意識する。
※考えを深めた姿
 - 自分の考えをもった後、異なる意見を通して、新たな視点で物事をとらえなおしている姿。(自己の考えの変容や自身の考えに確信をもっている)
 - 理解できた内容をより積極的に他者に伝えている姿。
(インプットした内容をアウトプットしている)
 - 情報を共有したり、統合したりして、新たな知を想像している姿。
- ウ 目標達成のために有効な手立ての確立
 - 発問の工夫 やってみたい、どうしてだろうと思える問い
 - 対話の工夫 目的をもって必要感のある対話活動を行う。
 - 視覚教材やICTによる興味付けや思考の可視化
- エ 振り返りの充実
一授業や一単元が終わった後、生徒の深い学びが達成されているかどうかを把握し、生徒が深い学びを再確認・再実感するために、「振り返りシート」を活用する。

特色ある学力向上への取り組み

○授業改善の視点(静岡県教育委員会)

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「**押さえる**」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「**仕掛ける**」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「**確かめる**」

○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示
- ・外国語学習にたくましく取り組む姿勢を育成するために表現活動を中心とした知識活用の場面を多く設定する。

○中学校区学園化構想(桜が丘学園)

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

○達成感の味わえる授業づくり

- ・単元計画と本時の位置づけの明確化
- ・学習課題の明確化
- ・課題設定の工夫
- ・板書の工夫
- ・まとめ時間の設定

○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

○学習指導

- ・授業5原則の意識化
- ・基礎学習の実施
漢字・数学・英語の1Pノートで基本知識の定着をはかり、eライブラリーの問題を参考に応用問題にもふれる機会をつくる。
- ・チャレンジ学習(数学、英語の基礎学力テスト)の実施

生徒が活躍する授業づくり

目指す姿

課題意識をもって、主体的に学びに取り組む姿。

学んだことを活用して、進んで新たな学習に取り組む姿。

掛川市立原野谷中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

学区は、旧原田村（原田小学校学区）、旧原谷村（原谷小学校学区）の2地区に分かれています。北部地域は美しい自然環境・温かな人間関係に支えられた農山村地域でしたが、近年は兼業農家が目立つようになってきました。また、新東名高速道路が通過し、インターチェンジも近くにあるため、学校周辺の交通量は比較的多いです。南部地域も農村地域と住宅密集地域が広がっていますが、天竜浜名湖鉄道沿線の住宅化が進み、多様な考え方や進取斬新な気風が生まれつつあります。そうした両地域の持つ特性が生徒の長所をつくる基礎となっています。しかし、両地域とも全体として共働き家庭が多くなってきているため、生徒指導上留意しなければならない点も多いです。

原野谷中学校区の子どもの特徴としては、大変純朴であり、落ち着いた生活を送っていることが挙げられます。諸活動に熱心に取り組み、また、明るいあいさつができ、小規模集団ならではの生徒相互の気心が通じているというよさもあります。学習では、まじめな態度で授業に取り組んでいます。

一方で課題としては、社会に出たときに主体的に行動できる力や、根拠を明確にして相手にわかりやすく考えを伝える力が乏しいという点が挙げられます。また、辺境の中山間地に位置する地域であるがゆえに、社会性に乏しく、競争によって培われるたくましさに欠ける子どもも少なからずいます。さらに、人間関係で悩みをもつ生徒も少なくなく、心の教育の必要性を感じています。

平成29年度の研究主題は「思考力・判断力・表現力を育む授業」でした。年間を通し、各教科で研究主題に則った授業づくりを進め、一定の効果を得ることができました。図1は外国語科で生徒が書いた英語による読書感想文です。しかしながら、他者(教材・題材・学習問題等)の考えや、そこに込められた思いを理解すること、根拠を明確にするなどして相手に分かりやすく自分の考えを伝えることが苦手であることが、授業中の様子や校内定期テストの結果から明らかとなり、平成30年度はこれらの点を改善するための研究主題を設定することとしました。

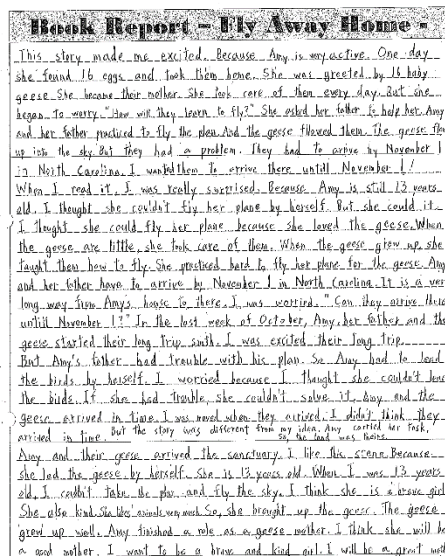


図1 英語による読書感想文

研究テーマ

他者の考えを理解した上で、自分の気持ちを
分かりやすく伝えることができる生徒の育成

研究の取組

授業改善を行う上で、まず、授業を何のために行うのかという問いに対する答えを考えることから、全職員で取り組みました。その結果、授業は生徒に「確かな学力」付けるためのもので、学校教育法第30条第2項にあるように、学力の三要素が①基礎的な知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体的に学習に取り組む態度であると共通理解を図りました。その上で、本校研究主題と学力観との関連性を次ページ□内のように見出し、研究主題に取り組むことが、生徒に確かな学力を育むために価値あることであることを認識しました。

「他者の考えを理解した上で」の部分、他者の考えを理解しようとする積極的な姿勢（主体的に学習に向かう態度）や、その考えがどのような意図によって導かれたのかを思考したり、また正しい考えなのか等を判断したりする力が働く。「自分の考えを分かりやすく伝える」の部分、分かりやすく伝えようとする積極的な姿勢（主体的に学習に向かう態度）や、分かりやすく伝えるための表現力が求められる。そして、理解するにも、表現するにも基本的な知識・技能は欠かすことはできない。

この上で、静岡県教育委員会が示す授業改善の視点を参考に、「はらのや型」の授業を設定し、全職員で授業づくりに励んでいます。特徴としては、①早い段階で「学習の見通し」をもたせ（導入）②何を考えるのかの「問い」を提示し（学習問題・学習課題）③「追求」や④「まとめ」の時間を十分確保すること、また、授業と関連する家庭学習を予習と復習として生徒に課す点です。家庭学習にはeライブラリを含めます。

特色ある学力向上への取組

1. 教科ごとの研究仮説、研究方法、評価方法の設定をしています。これにより、教科の特性や教員個々の強みを生かした授業づくりが可能となります。
2. 原野谷中学校区の小中学校は、「小中一貫教育」の市指定研究を受けています。原野谷学園は、これまでも園小中と地域が一体となり、「夢を抱き りりしく歩む 原野谷っ子」を目指してきました。本校も、小中一貫教育グランドデザインに則った教育活動を展開しています。
3. 各教科で発達段階に応じた原野谷ならではの9年間のカリキュラムづくりに着手します。これにより、各教科におけるカリキュラム・マネジメントが可能となり、主体的で対話的で深い学びを促す授業づくりにつながります。
4. 本校英語科教員と小学校高学年の担任が連携し、掛川スタンダードを基にした外国語の授業を展開することで、効果的な専科教育の在り方について研究を進めます。
5. 地域の人材を活用した、数学塾を開催し、数学の基礎学力の定着に取り組んでいます。

目指す姿

校訓「心ゆたかに」 学校教育目標「夢・汗・感動」 重点目標「かしこく・りりしく・たくましく」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを論じている言葉です。この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜しまず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子供達（原野谷っ子）が目指した姿なのです。「かしこく・りりしく・たくましく」は、原野谷っ子の目指す姿を飾る言葉です。

◇「かしこい原野谷っ子」は、人のために役に立とうとする志のもと、自ら考え判断して行動する力を目指します。

◇「りりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。人として当たり前なのが自然にできる力を目指します。

◇「たくましい原野谷っ子」は、心と体の健康づくりと体力づくりを図り、課題に粘り強く取り組む思考力・判断力・表現力を身につけ、たくましく生き抜く力を目指します。

「かしこく・りりしく・たくましく」は互いに連動しています。「かしこい原野谷っ子」を育てるためには、「りりしい原野谷っ子」、「たくましい原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「凜とした心」と「健康な体」が必要です。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様の力を借りながら、原野谷っ子の心と体を育て、原野谷っ子の学力向上を目指します。

★『はらのや型』

<家庭学習による予習> ・チャレンジ学習1P…国語、社会、数学、理科、英語 ・[数学、英語、漢字] 1Pなどで生徒が自主的に学習をすすめる。	
導入	【学習目標】を提示…『押さえる』（※板書：黄枠で囲む） ・生徒が本時の授業についての見通しをもつ。 ・導入を工夫し、早い段階で「学習問題」をつくる。
5-10分	
追究	【学習問題】生徒の主体的な問い（ <u>課題</u> ）を生み出す工夫…『仕掛ける』（※板書：黄枠で囲む） ・個人追究、集団追究に十分な時間を取る。 ・効果的な小集団活動を行う事で考えを広めたり、深めたりする。 ・ICTを効果的に活用するなど、多様な学習活動を展開する。
25-30分	
まとめ	自分の言葉でまとめたことを活用・評価…『確かめる』 ・自分なりの言葉で授業内容をまとめ、振り返る。 ・まとめたことを発表し合って、理解を深める。 ・まとめたことを活用して（適用・評価）問題を解く。
10-15分	
<家庭学習による復習> ・チャレンジ学習1P…国語、社会、数学、理科、英語 ・[数学、英語、漢字] 1Pなどで授業者が意図的に課題を与える。	

掛川市立北中学校

平成30年度 我が校のものがたり



School Identity 「冀北精神」

大先輩達のように、目標に向かって自分を高めよう
北中生として誇りをもって生活しよう

生徒の実態

- 純粋な人間性を持ち合わせている
- 明るい対応や笑顔の受け答えができる
- 学習に対する意識が全体的に高い
- ◇一步踏み出すエネルギーに欠ける
- ◇ルールの上は走れるが新たな道を築けない
- ◇壁に当たった時の自己回避能力に欠ける

冀北の目指す生徒の姿

- 挑戦をいとわない生徒
- 新たなルールを自ら切り拓いていける生徒
- 失敗を恐れない生徒
- 現状を打破していこうとする生徒
- 自ら負担をかけている生徒
- 自身でふさわしい行いをしていく生徒

学校教育目標

確かな学力 豊かな心 高いところざし

校内研修テーマ

「学び合い 高め合う授業」

①真に意味ある小集団学習②「なぜその教科を学ぶのか」に答え得る教師

平成29年度の成果と課題から

「生徒が継続して何かを学んだり、調べたりして考えを深めていけるようにしたい。そのためには生徒が主役になり、教師が継続して生徒の学びをサポートしていきたい。」これは、平成29年度の校内研修を考える際、最初に抱いた願いである。一つ一つの断片的な知識を切り売りして行くのではなく、何か筋の通った学びを日々の授業で展開していくために教師は学び続け成長し続けるような存在でありたい。そして、本校の穏やかな生徒と若々しい教師集団が共に学んでいきたいとも考えた。そこで、学ぶことの本質に迫るためのテーマとして「学校教育の中でその教科を学ぶ意義」を考えること、生徒が主役となって学んでいくために「真に意味ある小集団学習」を目指すことを柱として校内研修テーマに迫っていった。

まず、校内研修の方向性を共通理解することからスタートし、各学年で掲げた“めざす小集団の姿”について様々な年齢や経験をもった学年集団で意見交換を定期的に行った。校内研修が進んでいくと、教師が授業をデザインしその中で生徒の意志や意見を表したり、生徒自身が選択したりする場面を多

く取り入れた授業へと、北中の授業が少しずつ変わり始めていった。そして、生徒自身が課題を見つけ教師のサポートを得ながら修正し魅力ある学習課題を創り追究活動していく姿や、単元の学習を通して学んだことを活用し新しいものを創造していく生徒の姿が見られるようになってきた。

しかし、生徒が人の意見や考えを聞くことで解決したいと思えるような授業であったり、話したい、深めたい、検討したいと思えるような材料が十分でない授業もあつたりするため、冀北でめざす生徒の姿の実現には至っていない。それには、「真に意味ある小集団活動」の研修を進めると共に、各教科の背景にある大切な概念や生徒に身に付けてほしい知識・考え方などを教師自身が問うこと、つまり「学校教育の中でなぜその教科を学ぶのかの意義」を教師自身が問い続けることが必要だと考える。この単元で、この教材でどのような学びをし、どのような力を付けるのか等、教科の本質に迫った学びができれば、生徒にとって50分の授業は素晴らしい時間となり、冀北のめざす生徒の姿の実現へもつながっていく。そこで、校内研修テーマに迫るために本年度も昨年度に引き続き「真に意味ある小集団活動」と「なぜその教科を学ぶのか答え得る教師」の二つを柱とした。日々の実践で以下(図1)にあるような様々な切り口からテーマ実現に向け授業を行い、校内研修の場で成果や課題を出し合いながら、確かな学力の育成のために共に考え次の授業実践へとつなげていく。

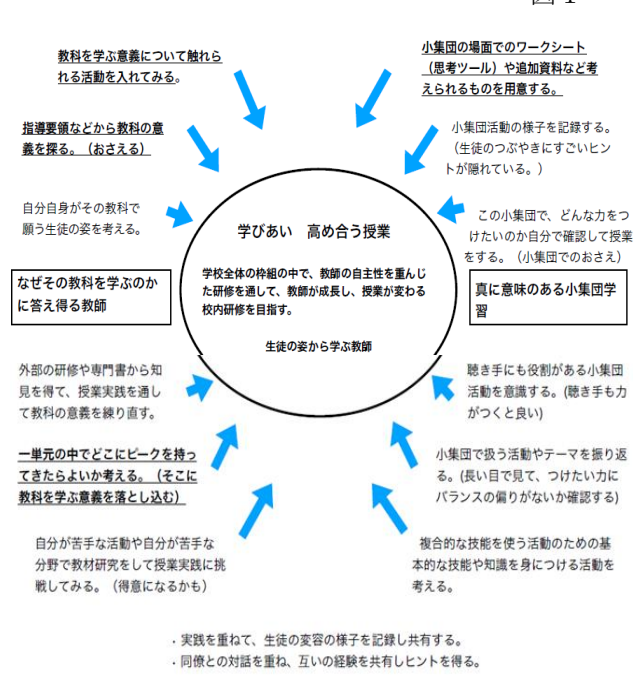
また、授業で学んだことを家庭学習で自ら振り返り自主的に学習を行っていけるように、各教科家庭学習の指導を行ったり、Eライブラリーを活用した学習法について伝えたりし、学校での学びと家庭での学びをつなげ、学校教育目標「確かな学力」につなげていく。

H29「真に意味ある小集団活動」「なぜその教科を学ぶのか」に答え得る教師を受けて

平成30年度 共通の取組

- ① 対話を主体とした授業を通して正解だけを追い求めるのではなく、考えを導き出すまでのプロセスを大切にしよう。
 - ・ 教師はどの生徒も思考できるように、思考ツールとなるワークシートや小集団における補助発問、足掛かりとなる活動などを用意しよう。
 - ・ 教師は活動の様子を見て、答えを出せなくても、ねらいに迫ろうとしていた姿(本時のおさえや目指す小集団の姿に迫ろうとしていた姿)や思考の様子を取り上げよう。
- ② 「真に意味のある小集団学習」を通して、知識や技能を覚えさせるだけでなく、活用したり表現したりすることで、各教科のつけたい力に迫ろう。教師はその単元での目標をおさえよう。
- ③ 生徒が「なぜその教科を学ぶのか」ということに気づき、目標をもって学習に取り組めるように教師がその教科を学ぶ意義を考えよう。一単元に一時間は教科を学ぶ意義を生かした授業に挑戦しよう。

確かな学力 豊かな心 高いこころざし 図1



平成30年度の方針 H29「なぜその教科を学ぶのか」実践から

個人で学ぶための場の設定や後押しをしたい。
教師の成長につながるような出会いをもっと提供したい。
個人で考えているアイデアを共有したり、相談できるような環境が欲しい。
自分が変わることで授業が変わり、生徒に還元できることを実感したい。

出会い	1. 静岡県総合教育センターの希望研修や附属中学校の研究発表会に学年運営に無理のない範囲で参加する。 2. 校内授業研究会を実施し、授業者自身が見てほしい先生に見て頂き、授業について語り合う。
探究	学年内の出張のバランスにより、外部の研修に参加することができない場合は自分が気になっていた、調べたかったりした内容の専門書などを学校の予算で購入し、1年間読み深める。(年度末には学校の職員図書として保管)
つながり	教科内を基本とした職員のパエを作り、1ヶ月に1回~2回程度、お互いの今の様子を語り合う機会を作る。パエは4月から7月、8月から12月で変わる。
教科ミーティング	堅い内容の教科研究ではなく、授業でやろうとしている内容を話したり、最近の悩みなどを話しあう。「教える→教わる」の関係ではなく、「同じ実践者」の視点で話し合う。

掛川市立城東中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は、従来の教授型授業から脱却し、生徒が主体的に学び、追究・表現する授業を目指し、「小集団活動」と「学習問題」に視点をあてて研修をすすめた。どの教科でも学習班の活動を取り入れたことで、生徒は小集団での話し合い活動に慣れ、積極的に考え、意見を発表する場面が増えた。しかし、全体としては目標に近づいたように見えても、実際には一人一人の理解が深まっていないのではないかという課題が上がった。



研修テーマ

『生徒が主体的に追究・表現する授業』
～一人一人の学びの深まりを目指して～



研修の取組

重点

・深い学びを実現する学習問題の設定

生徒の「聴きたい」「話したい」気持ちを引き出す工夫
いろいろな解決方法が考えられる工夫
既習事項を想起・活用できる工夫
問題解決をする必然性のある工夫

付きたい力を明確に！

・小集団活動の充実

単元や1つの授業で目指す生徒の姿を具体的にもつ
個の考えをもって小集団活動にのぞませる
考えるための材料を準備する
一人一人の理解の深まりを把握する手立てをうつ

学び合いの目的を明確に！

特色ある学力向上への取組



学習環境づくり～学習の5原則～

授業における「学習の5原則」として、「タイム着席」「あいさつ・返事」「聞く姿勢」「取組」「課題や学習用具準備」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

思いっきり学習会

基礎学力の定着を図るため、校内テストの前に思いっきり学習会を実施する。テスト勉強への意欲化を図ると共に、勉強の方法がわからない生徒が勉強に前向きに取り組めるようにする。

外国語教育

新掛川スタンダードを有効活用し、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムを作成する。外国人とも主体的にコミュニケーションをとり、得た知識を生かして課題を創造的に解決する人材育成を目指す。

道徳における一貫教育カリキュラム

「コミュニケーション力の育成」を重点とする。地域素材（偉人）を題材にしたかけがわ道徳を有効に使い、教科化による「考え議論する道徳」に対応したカリキュラムを作成する。

総合的な学習の時間における一貫教育カリキュラム

「コミュニケーション力の育成」を重点とする。身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てるカリキュラムを作成する。

家庭学習

「自学ノート」「eライブラリー家庭学習サービス」を導入し、家庭学習への生徒の主体的な取組を奨励する。学級担任は教科担任や保護者と連携を取り合い、多方面から家庭学習をサポートしていく。

目指す姿



学校目標：誇りをもち、ひたむきに学ぶ生徒

- ・真面目さを生かした対応、柔軟に判断できる子
- ・コミュニケーション力、面白みのある発想豊かな子
- ・気づく感じる感性、想像力を持ち合わせた子
- ・優しさ、温かさ、お互いに助け合う力を持った子



掛川市立大浜中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

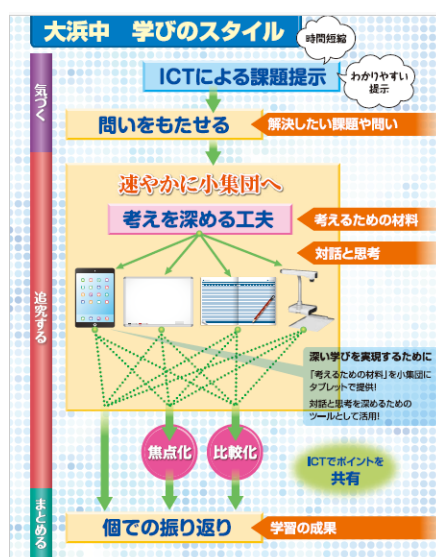
- ・主体性の向上
→これまでの研修成果により「もっと学びたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒が増えた。
- ・考えの深まりを実感
→仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。

研修テーマ

主体的・対話的で深い学びの実現
～深い学びに導く手立てと見取り～

研修の取組

- 1 授業の構造化
 - (1)解決したい課題や問い
 - (2)深め、広げる関わり合い
 - ①学習形態
 - ・コの字型隊形
 - ・小集団
 - ②考えるための材料
 - (3)学びの実感につなげる評価や振り返り
- 2 ICTの効果的な活用
 - (1)学びのUDとしての活用
 - ①わかりやすさ
 - ②共有しやすさ
 - ③時間短縮
- 3 生徒の変容を見取る事後研修
 - (1)中心授業後、振り返りシートをもとに、抽出生徒の変容を比較する。
 - (2)生徒の表れをもとに「深い学びに導くための手立て」が有効であったかを協議する。





特色ある学力向上への取組

①外部人材活用による研修の活性化

- ・聖心女子大学の益川弘如教授と静岡大学の河崎美保准教授から助言を受け、「深い学び」に焦点を当てた校内研修を推進する。

②データに基づく授業診断

- ・授業改善によって生徒の学力が向上したかどうか、授業改善が効果的であったかどうかを検証するために、授業評価アンケートや全国学力学習状況調査、標準学力検査を用いて総合的に分析を行い静岡大学の河崎准教授に授業診断してもらう。

③対話を基軸にした授業づくり

- ・コの字、小集団を基本とし、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」という4つの観点を整理して、授業づくりを行う。

④対話を基軸にした学校づくり

- ・学校防災推進協力校の取組や、キャリア教育、仲間づくりや自尊感情を高める支援など、すべての教育活動において「対話」「協働」「学び合い」を実践する。

⑤家庭学習におけるICTの活用

- ・インターネットによる家庭学習サービス「eライブラリ」を使って、生徒が家庭で、復習や予想問題に取り組む。

⑥IBAおよび掛川スタンダードの活用

- ・中2で実施するIBAにより実態を把握するとともに、小学校の外国語教育との連携を図りながら授業改善に努める。



目指す姿

- ・小集団学習等での他との関わりの中で「わかった」「できた」を実感することで「もっと学びたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
- ・仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えをさらによいものにしようとする生徒。

掛川市立大須賀中学校

平成30年度 我が校のものがたり

子どもの実態

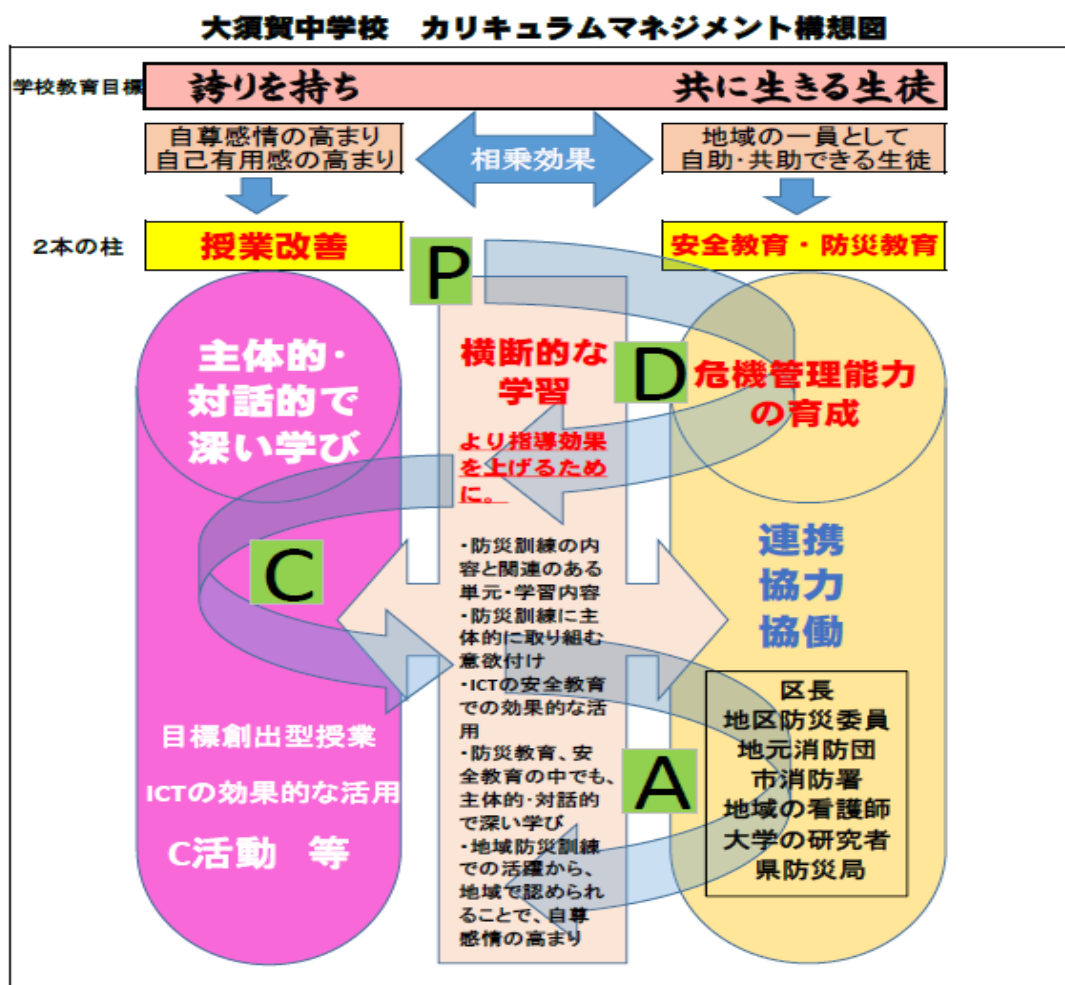
- 【良い点】・問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
- ・小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
 - ・生徒の地域行事への参加率が大変高く、地域とのつながりが強い。
- 【課題点】・学びを深めようとしたり、深くものごとを考えようとしたりする習慣がない生徒が多い。
- ・基礎学力や家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。

研修テーマ

これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して

研修の取組

「授業改善」と「カリキュラムマネジメント」の2本柱を立て、教育課程全体でこれからの社会に求められる資質・能力の育成をねらう。



特色ある学力向上への取組

研修テーマの実現のために今年度、特に力を入れて取り組むことは以下の2点である。

1 授業・単元デザインの考え方

(1) 授業づくりの4視点 (目標創出型授業の4要素)

目標創出型授業 (益川, 2015) 作成にあたり、「A 学習課題」「B 学習教材」「C 学習活動」「D 学習記録」の4つの視点を活用して組み立てる。授業後の振り返りにも活用。

(2) 具体的な5つの手立て

ア おおすか型授業スタイルの確立 (導入の工夫、学びの工夫)

生徒が資質・能力を発揮しながら主体的に学ぶことのできる授業づくりを進める。

- ・ ICTの活用やシンプルで明確な追究課題を示すことで、導入部分を短縮する。
- ・ 小集団 (3~4人) 活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。
- ・ 単元を通して、生徒の主体的な学びによって授業が展開される学習方法を考え、実践する。
- ・ 基礎学力向上のための家庭学習の充実を図る。(予習、復習、eライブラリの活用など)

イ コミュニケーション活動

週に一度、朝の会の後に各1~2分間の会話活動と合わせて、外国語の授業導入時においてスモールトークを取り入れ、対人スキル (聴く・話す) の基礎技術を身に付けさせる。

ウ 朝学習

学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、年間25回の朝学習を行う。テスト前の5日間を使い、テストと小集団教え合い学習を行う。

エ ICT活用指導力向上

主体的な学びを広げ、深めるためにICTは有効なツールである。この活用方法の開発や教員の活用指導力向上に向けて、環境整備や活用法の紹介、授業実践を積極的に行う。

オ 評価方法の改善

従来の総括的評価 (テスト等) だけでなく、生徒の考えが、単元の中でどのように変容したかを追うことが必要である。

- ・ 単元を貫く課題を設定する。
- ・ ワークシート等で生徒の考えを蓄積し、学びの変容を把握する。(ポートフォリオ評価)
- ・ 事前に生徒の評価計画を立てる。(ルーブリック評価)
- ・ 評価材料から、教師は自分の授業を振り返り、次の授業に生かす。(指導と評価の一体化)

2 カリキュラムマネジメントの考え方

カリキュラムマネジメントとは、「学級教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善する営み」のことである。本校に当てはめると、「学校教育目標を達成するために、防災学習を軸として、各教科間の学習内容を接続した授業を展開する。さらに、それらの実践を評価し、次年度に向けて授業をより良いものに変えていく営み」ということになる。(平成29年度から静岡県教育センターと研究協力)

[昨年度] 各教科・領域の中の接続可能な学習内容を洗い出し、表に示した。

[今年度] 昨年度作成の表を元に授業実践を行い、成果と課題を議論し、次年度へつなげる。

目指す姿

追究したい問いに対して主体的に深く学ぶことができる生徒